KIORITZ

共立管理機

KMK85
KMK85W

取 扱 説 明 書



- 当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
- 誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

※快適作業を維持するため、製品の定期点検を励行しましょう。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、本製品をお買い上げ頂きありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前にこの取扱説明書を良くお読み頂き、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後もこの取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときはこの取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、速やかに販売店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店、または JA へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

この管理機は、路上（公道）走行できません。

この管理機は、道路運送車両法による型式認定を受けておりませんので、法令により公道を自走する、およびトレーラけん引走行することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。

説明記号の見方

⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

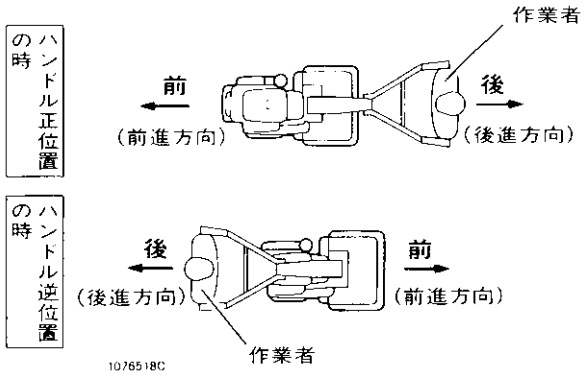
⚠注意　その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

方向について

本機の前後は、右図のように作業者から見た方向で表わします。
本文中の、前進・後進についても、作業者から見た方向で表わします。



本製品の使用目的について

本製品は、耕うん後のほ場の、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機としてご使用ください。
また、未耕地でも、車軸ロータリを使用すると耕うん作業も行えます。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
(保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。)

仕様について

本製品には、下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

W ：ワイドタイヤ仕様

目次

はじめに..... 1

1章　安全な作業をするために必ずお守りください 4

1. 運転する人について 4
2. 作業前後の確認時の注意項目 5
3. 作業機に関する注意項目 6
4. 運搬時の注意項目 7
5. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目 8
6. 作業時の注意項目 10
7. 作業終了後・格納時の注意項目 12
8. 安全銘板の貼り付け位置 13
9. 安全銘板の手入れについて 14

2章　サービスと保証について..... 15

保証書は大切に保管してください 15
アフターサービスをお受けになるときは 15

3章　各部のなまえ 16

4章　各部のはたらきと使いかた..... 18

1. エンジンコントロール関係 18
2. 走行・作業関係 19
3. その他 21

緊急時の停止方法について 24

5章　運転前の準備 25

1. 本機の点検のしかた 25
2. 燃料の点検・補給のしかた 26
3. オイルの点検・補給のしかた 27

6章　運転・移動のしかた 28

1. エンジンの始動のしかた 28
2. 暖機運転のしかた 30
3. エンジンの停止のしかた 30
4. 発進のしかた 31
5. 変速のしかた 32
6. 旋回のしかた 33
7. 停車のしかた 34
8. 駐車のしかた 35
9. トラックでの運搬のしかた 35

7章　作業と調節のしかた..... 37

1. ハンドルの高さ調節のしかた 37
2. ハンドル台の回動のしかた 38
3. 高速バックストッパのセットのしかた 39
4. 主変速レバーの回動のしかた 39
5. サイドクラッチレバーの左右の入れ替えかた 40
6. 車軸と車輪幅の調節のしかた 41

8章　ロータリーとアタッチメントについて 42

装着位置と用途について 42

9章　作業後の手入れと格納について... 43

1. 機械の手入れのしかた 43
2. 各部の注油・グリスの塗布箇所 44
3. 格納のしかた 45
4. 長期間使用しない場合の手入れ 46

10章 点検・整備のしかた..... 47

1. 定期点検・整備の時期について 47
2. 定期点検一覧表 48
3. 燃料の抜きかた 49
4. 各オイルの交換のしかた 50
5. エアクリーナーの掃除・交換のしかた 51
6. 燃料コシ器エレメントの掃除のしかた 51
7. サイドクラッチレバーの点検・調節のしかた 52
8. 主クラッチレバーの点検・調節のしかた 52
9. 締め付けをするところ 54
10. 点火プラグの点検・掃除・交換のしかた 55
11. タイヤ空気圧の調節のしかた 55
12. 燃料パイプ・電気配線の点検のしかた 55

11章 不調診断のしかた 56

1. エンジンが始動しない場合 56
2. エンジンの力がない場合 56
3. 各部に振動が多い場合 56

12章 その他 57

1. 主要諸元 57
2. 主要消耗部品 58
3. 適応標準ロータリー 58

13章 配線図 59

1章　安全な作業をするために必ずお守りください

●ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

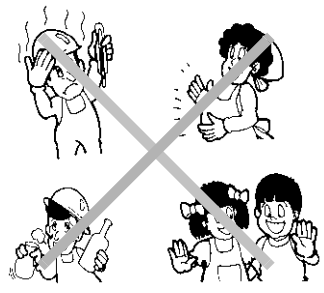
1. 運転する人について

⚠警告

■体調が悪い人や、操作が未熟な人には作業させない

機械の運転操作には、慣れが必要です。特に主クラッチ「切」は素早くできるように練習し、十分に慣れてから作業してください。ただし、以下の人には操作させないでください。

・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
・本書および取扱説明書の内容が理解できない人。
・酒を飲んでいる人。
・視力不足のため、表示内容が読めない人。
・妊娠中の人。
・睡眠不足の人。
・16才未満の人。
・ハンドルを操縦する体力に自信のない人。
・運転が未熟な人。

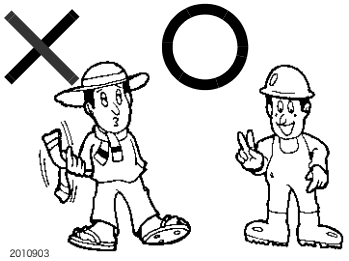


2010902

⚠警告

■作業者および補助者は、作業に適した服装をする

安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎなどの作業に適した服装をしてください。はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。
守らないと、機械に巻き込まれたり、すべって転倒するおそれがあります。



2010903

■機械を他人に貸すときは

取扱説明書、および機械に貼り付けられた安全銘板の内容が理解できない人には、絶対に運転させないでください。事前に取扱方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず「取扱説明書」を読ませてください。
守らないと、説明不足により、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

■機械の改造や指定以外のアタッチメントの装着禁止

改造をしないでください。
守らないと、機械の故障、事故・ケガをまねくおそれがあります。

■夜間作業禁止

暗い場所や見通しの悪い場所での作業はしないでください。
守らないと、事故・ケガをまねくおそれがあります。

■作業場所に杭・石・ガラス瓶・空き缶などの異物があれば取り除く

作業をする場所を、あらかじめ確認して、異物があれば取り除いてください。
守らないと、機械の故障や思わぬ事故をまねくおそれがあります。

2. 作業前後の確認時の注意項目

⚠危険

■注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・点検をしないでください。
守らないと、燃料などに引火して、火災の原因となることがあります。



■燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。
守らないと、燃料に引火し、火災を起こすおそれがあります。

■燃料もれに注意する

燃料パイプが老化していたり破損していると、燃料もれを起こしますので、必ず点検し、老化・破損しているときは、部品を交換してください。
守らないと、火災事故を引き起こすことがあります。

■燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
守らないと、火災事故を引き起こす原因になります。



■燃料は規定量以上入れない

燃料は、燃料タンクの規定量以上入れないでください。
守らないと、燃料がこぼれて、火災事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■閉め切った屋内などでは、エンジンを始動しない

エンジンの排気ガスは有害です。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。
守らないと、排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。

■マフラー・エンジンのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか毎日作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。
守らないと、火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。

■電気部品・コードは必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検し、被覆のはがれがある場合は、配線コードを交換し、接触部にゆるみがある場合は、確実に締め付けて固定してください。
守らないと、ショートして、火災の原因となることがあります。

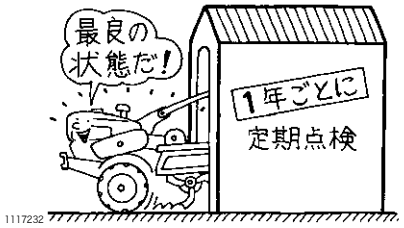
■点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。
守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

■定期点検整備を受けてください

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプや電気配線は2年ごとに交換してください。
守らないと、整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



■作業前・後は必ず機械の点検をする

使用の前と後には必ず機械の点検をしてください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動不良の場合は、確実に作動するよう調整してください。
守らないと、整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。

■カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。
守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ベルトを交換したり、爪を交換するとき、巻き付いた草などを取り除くときはエンジンを停止する

守らないと、思わぬ傷害事故の原因となります。



■使用していないPTO軸にはカバーを取り付ける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを取り付けておいてください。
守らないと、巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

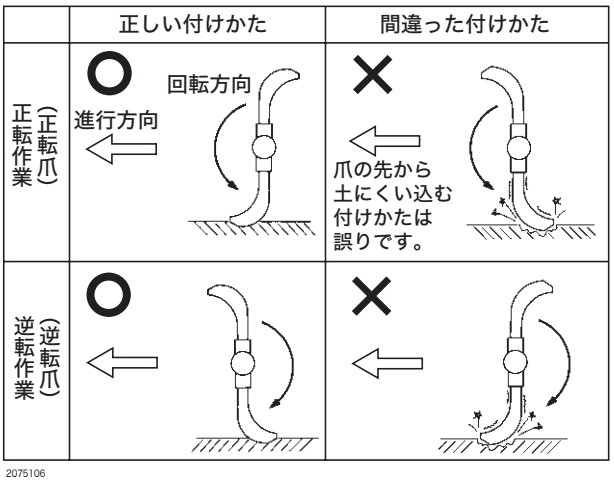
3. 作業機に関する注意項目

必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

⚠危険

■爪の取付方向を間違えないこと

爪の向きと刃面の方向を間違わないように注意してください。間違った向き、方向に取り付けると機械の破損や思わぬケガをすることがあります。



⚠警告

■作業機の着脱は平坦な場所で行う

作業機の着脱は、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、平坦で安定した場所で行ってください。装着したときは、連結部が確実にセットされているか特に確認してください。
守らないと、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■重い作業機を装着した場合には、ウエイトを取り付ける

バランスの良い状態を保ってください。
守らないと、バランスを崩し、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■重い作業機を装着する場合は、二人以上で行う

守らないと、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

4. 運搬時の注意項目

この管理機は、道路運送車両法による型式認定を受けておりませんので、法令により公道を自走する、およびトレーラけん引走行することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。

⚠危険

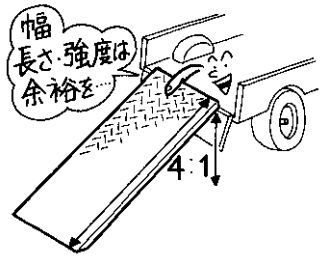
■アユミ板の上ではサイドクラッチ・主クラッチの操作厳禁

トラックへの積み・降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えたり停止するために、サイドクラッチ・主クラッチの操作を絶対にしないでください。また、変速レバーを「中立」にしないでください。緊急時にはエンジンを止めてください。
守らないと、転落などの事故の原因となります。

⚠警告

■強度・長さ・幅の十分あるアユミ板を使用する

積み・降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するアユミ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを選んでください。
守らないと、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2010961A

⚠警告

■トラックには必ず車止めを

積み込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けて車止めをしておいてください。
守らないと、トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。

■積み・降ろし作業は、誘導者をつけて

トラックなどからの積み・降ろし作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。
守らないと、転落などの事故をまねくおそれがあります。

■積み・降ろし作業中、機械の直前には絶対立たない

トラックなどからの積み・降ろし作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。
守らないと、傷害事故をまねくおそれがあります。

■登るときは前進、降りるときは後進で

トラックに積み込むときは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
守らないと、バランスを崩し、転落などの事故の原因となります。

■ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキをかけて、強度の十分あるロープでトラックに機械を固定してください。
守らないと、荷台から管理機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。

■本機を車に載せて運搬する場合は、燃料（ガソリン）を完全に抜き取ること

ワゴン車や車のトランクルームなどの密閉空間になる状態で本機を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を完全に抜き取ってから積み込んでください。
守らないと、燃料が気化し室内にガソリン臭が充満したり、燃料洩れが発生し火災の原因になります。

⚠警告

■運搬時は燃料コックを「閉」にする

守らないと、燃料洩れが発生し、火災の原因になります。

■車軸作業機（ロータなど）を取り付けたときは、アユミ板によるトラックへの積み・降ろし厳禁

守らないと、車軸作業機（ロータなど）がアユミ板に引っ掛かり、スリップするなどして、転倒・転落事故をまねくおそれがあります。

5. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠警告

■坂道を走行するときは

急な坂道は走行しないでください。坂道の移動は、トラックなどで運搬してください。やむを得ず坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて最低速度でゆっくり移動してください。また、変速レバーを「中立（N）」にしたままや、主クラッチを「切」にしたままの走行はしないでください。坂道走行中は、サイドクラッチ操作は行わないでください。方向を変えるときは、ハンドルを振って行ってください。

守らないと、本機が思わぬ方向に動き、転倒や思わぬ事故をまねくおそれがあります。



1077352

■溝・あぜを渡るときはアユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝を渡るときや軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用し、最低速度で移動してください。アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。アユミ板の上では、サイドクラッチ・主クラッチ・変速レバーの操作をしないでください。

守らないと、スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

■駐車ブレーキをかけているときは、サイドクラッチを操作しない

駐車ブレーキをかけているときは、サイドクラッチの操作をしないでください。

守らないと、ブレーキ「切」の状態になりますので、転倒や転落の原因となるおそれがあります。

⚠警告

■周囲に合図して、ゆっくりと発進

周囲の人に合図してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。
守らないと、思わぬ傷害事故の原因となることがあります。

■高速での前進・後進禁止

高速で前進、および後進は行わないでください。
前進・後進するときは、エンジン回転を十分に下げて、主クラッチレバーはゆっくり入れて行ってください。
守らないと、転倒などによりケガをするおそれがあります。

■車軸作業時は、周囲に十分注意する

守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

■急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときや坂道、凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。
守らないと、機械の破損、事故の原因となります。



1117234

■移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
注意しないと、転落事故を起すことがあります。

■移動時にはロータリーの爪を回さない、作業機を駆動させない

守らないと、爪や作業機に巻き込まれて、ケガを負うおそれがあります。

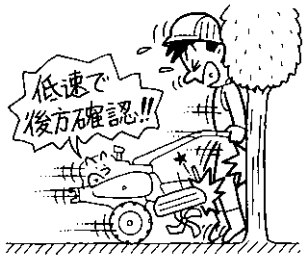
⚠警告

■燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

守らないと、燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。

■バックするときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して障害物と機械との間に挟まれないようにしてください。
注意しないと、思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



1077348

■凸凹やカーブ道路は、低速運転

坂道や凸凹、カーブの多い道路では、低速で移動してください。
守らないと、転倒や転落の原因となるおそれがあります。

■わき見運転や手放し運転禁止

守らないと、傷害事故の原因となります。

⚠注意

■軟弱地では、スリップ注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときには、エンジン回転を低速にしてください。
守らないと、高速運転では、スリップや転倒の原因になるおそれがあります。

6. 作業時の注意項目

⚠危険

■ロータリー（作業機）の下にもぐったり、足を入れない

ロータリーや作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。
守らないと、何かの原因で作業機が動いたときに、傷害事故を起すおそれがあります。

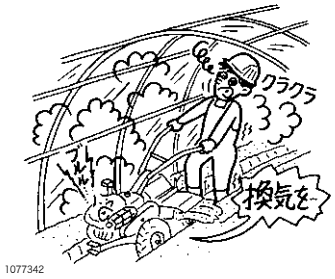
■共同作業者がいる場合は、お互いに注意する

守らないと、傷害事故の原因になります。

⚠警告

■ハウス内での作業では換気を十分に

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
守らないと、排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



1077342

■ロータリ側に立っての後進作業禁止

ロータリ部が作業者の直前にある状態で爪を回しながらの後進作業は厳禁です。作業者は、必ずハンドルを 180 度ターンして前進で作業してください。
守らないと、障害物と管理機の間にはさまれたり、転倒した場合に、ロータリーに巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。

⚠警告

■人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。
守らないと、思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



1077346

■エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
守らないと、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

■くわえタバコでの作業厳禁

守らないと、火災など、思わぬ事故の原因となります。

■ロータリー作業や車軸作業ではダッシュに注意

地面が固かったり、石をかんだり、ロータリーを急に地面に降ろすと回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す（ダッシュ）ことがあります。いつでも主クラッチが切れる姿勢で作業してください。
特に、川や崖、人のいる方向に飛び出すと、転落や人身事故をまねくおそれがあります。

■物や人をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
守らないと、思わぬ傷害事故を引き起こします。

⚠警告

■旋回・バック時はロータリー回転を止める

ロータリー作業時で旋回やバックするときは、ロータリーの回転を止めてください。また、作業時以外は、ロータリー回転を必ず止めてください。
守らないと、回転する爪に巻き込まれ、重傷を負うことがあります。



1077359

■ハンドルを元の位置に戻したときは、必ず元通りに後進作業ストッパを取り付ける

守らないと、後進時にロータリーが回転し、ケガをするおそれがあります。

■後進するときは障害物に注意

後進するときは、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認し、障害物と機械との間に挟まれないようにしてください。
守らないと、思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

■機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず駐車ブレーキをかけて、車止めをしてください。
守らないと、機械が動きだし、事故の原因となります。

⚠注意

■機械に付いた泥や、爪に巻き付いた草を取り除くときは、エンジンを停止する

守らないと、傷害事故をまねくおそれがあります。

■傾斜地で作業するときは輪距を広げ、サイドクラッチは使用しない

転倒しないように輪距を広げてください。方向転換する場合は、サイドクラッチを使用せず、ハンドルを振ってください。
守らないと、転倒事故を引き起こす原因となります。

■ハンドルを逆向きにしたらサイドクラッチの左右を付け替える

ハンドルを逆向きにすると、サイドクラッチの効きが逆になります。サイドクラッチの左右も付け替え、作業者の思った方向に旋回できるようにしてください。
守らないと、思わぬ方向に旋回して事故をまねくおそれがあります。

7. 作業終了後・格納時の注意項目

⚠危険

■ シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが十分に冷えてからかけてください。
守らないと、火災事故を引き起すことがあります。

⚠警告

■ エンジン・機械についたワラや草は取り除く

守らないと、火災事故の原因となります。

■ 長期格納時は、燃料を抜く

1 か月以上使用しないで、格納する場合は、燃料タンク・気化器の燃料を抜いてください。
守らないと、燃料が変質して、エンジンの不具合を起こす原因になります。

⚠注意

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから

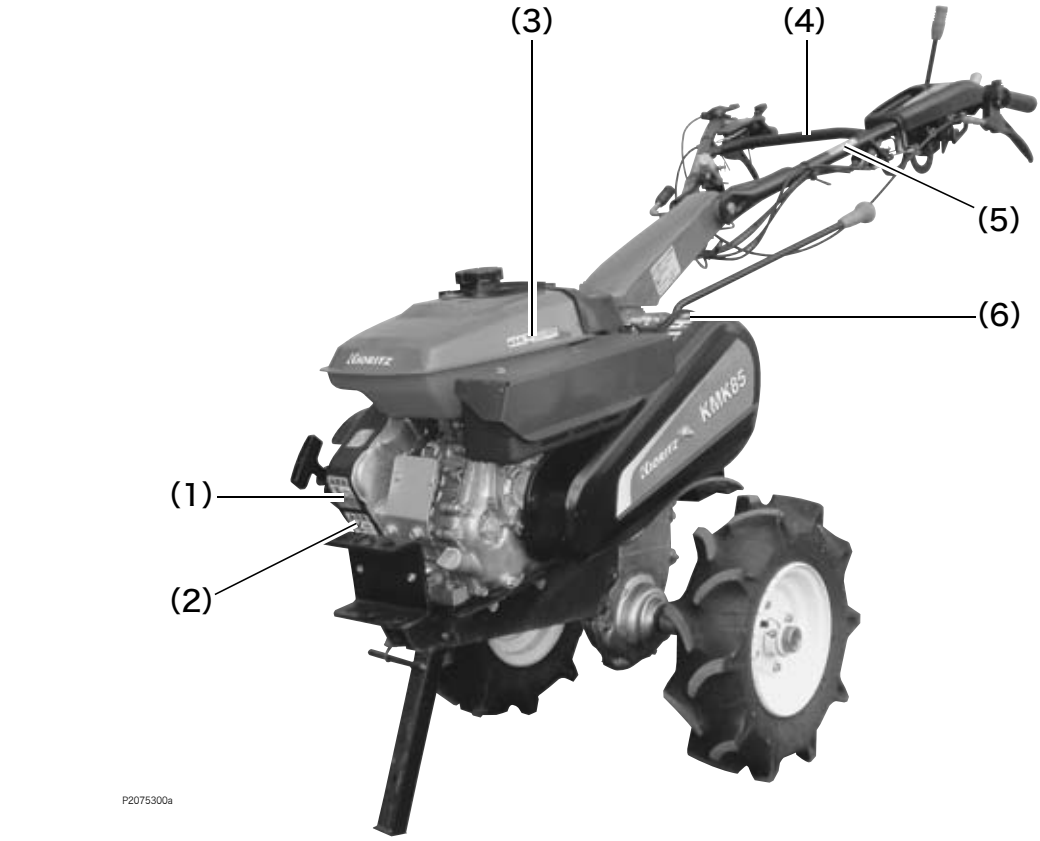
マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。
守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

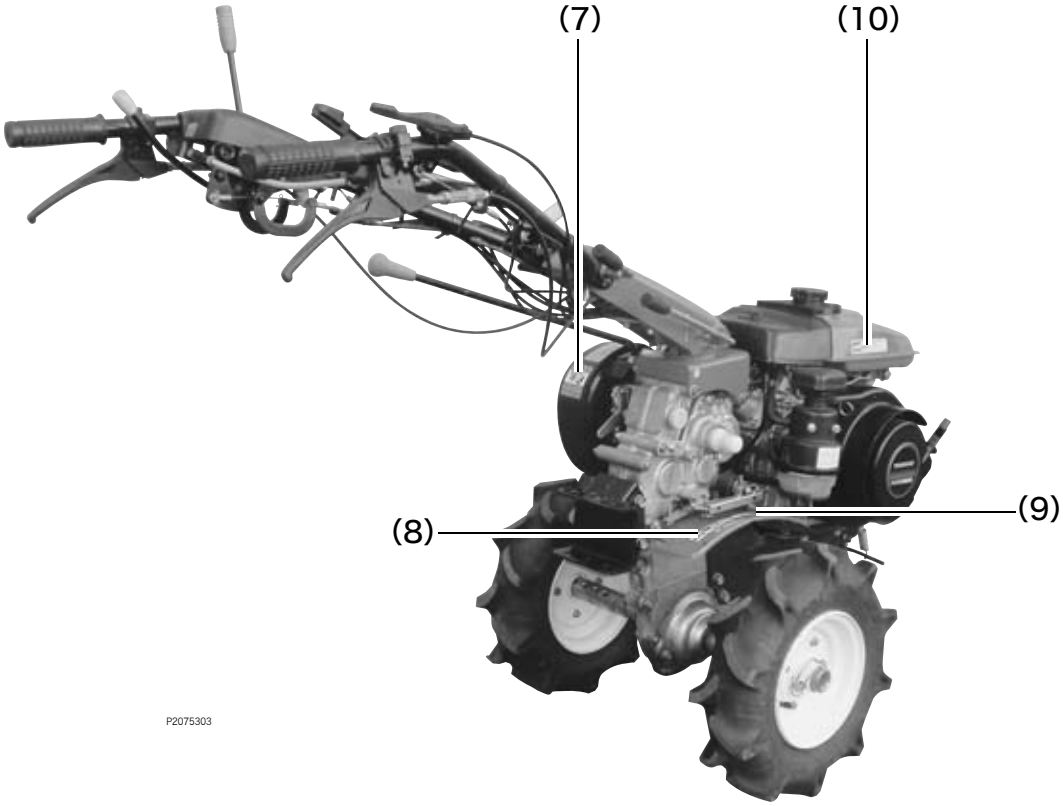
■ 機械の掃除・点検をするときはエンジンを停止する

守らないと、機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。

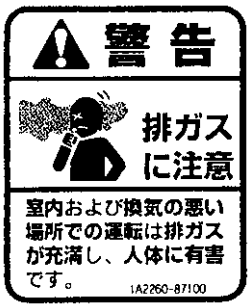
8. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。





(1)1A2260-87100 警告(排ガス)



(2)1A2260-87600 注意(エンジン停止)



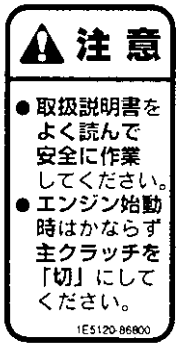
(3)1E5120-86720 注意(マフラー)



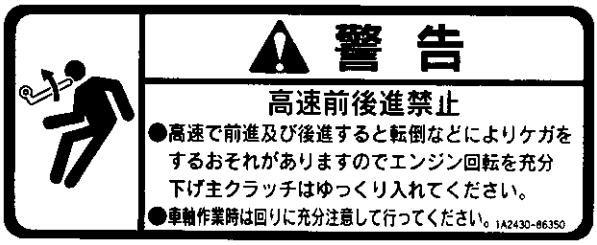
(4)1A2260-87720 注意(Sクラッチ入れ替え)



(5)1E5120-86800 注意(取扱い)



(6)1A2430-86350 警告(前後進)



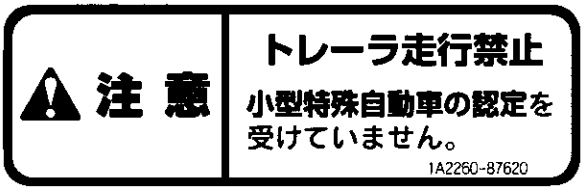
(7)1A2260-87780 警告(車軸ロータ)



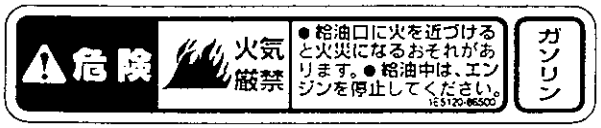
(8)1A2100-86530 注意(回転軸)



(9)1A2260-87620 注意(トレーラ走行)



(10)1E5120-86500 危険(ガソリン)



9. 安全銘板の手入れについて

■ 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹸水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分を拭き取ってください。

■ 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。

■ 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板は、お買い上げの販売店またはJAに注文してください。

2章　サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

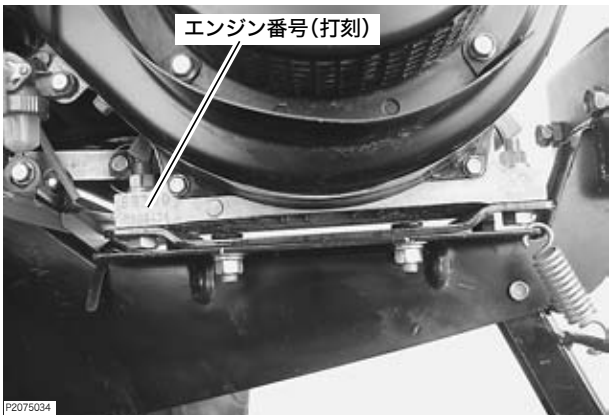
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに56ページの「11章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店、またはJAまでご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （車速や、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。

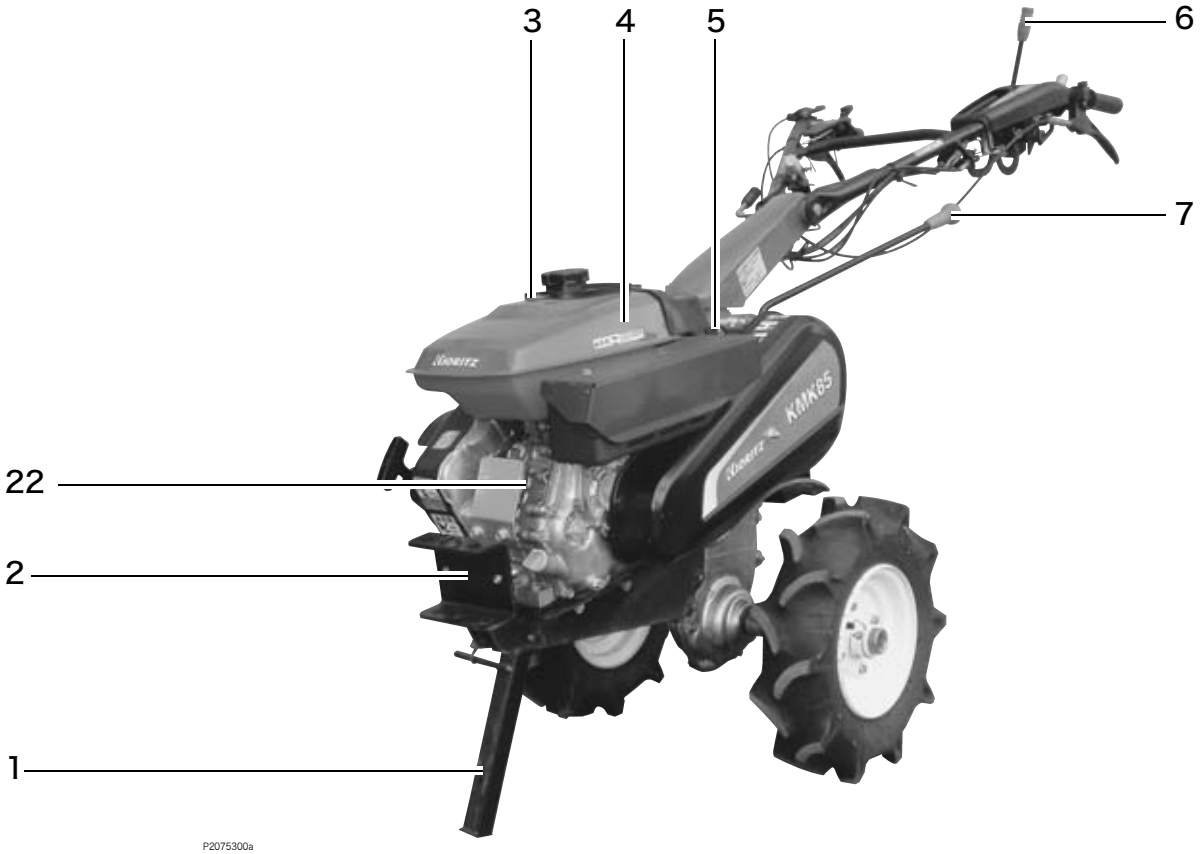


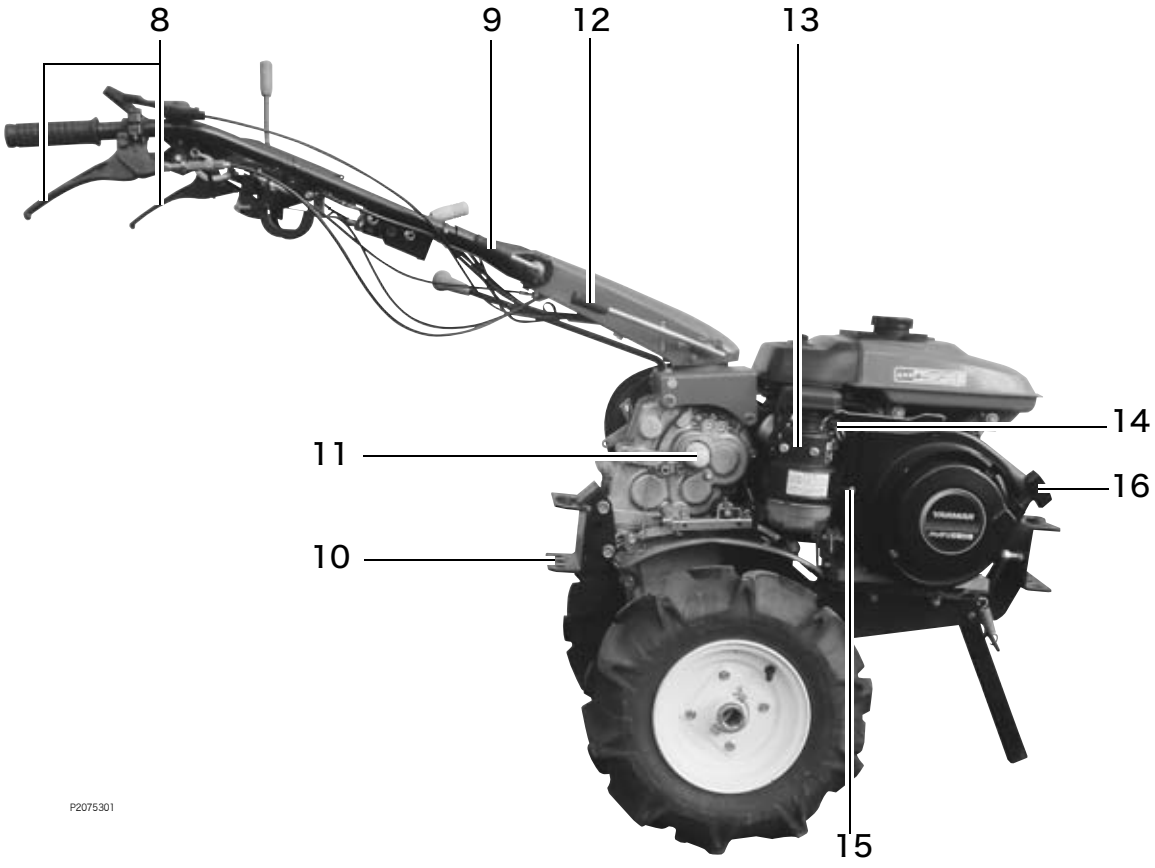


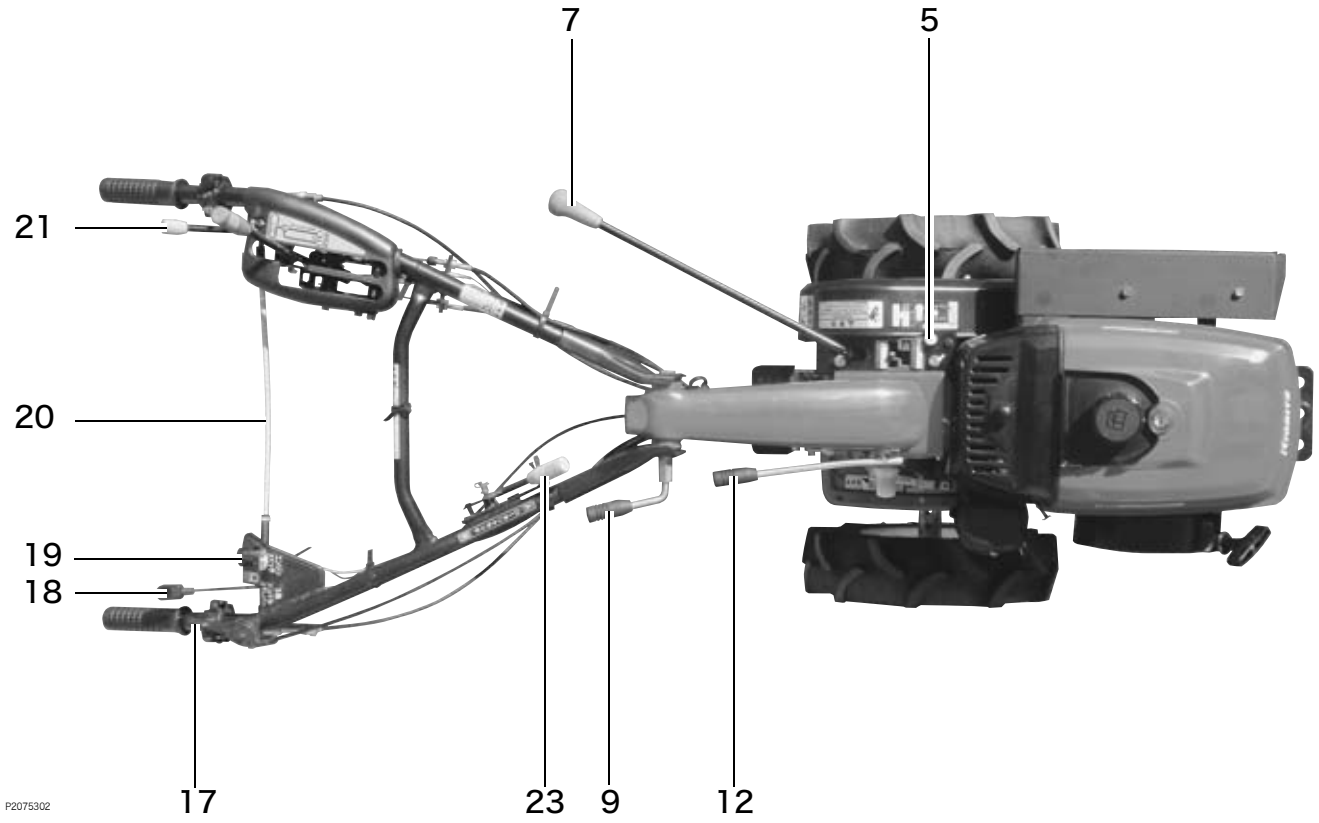
〈補修部品の供給年限について〉

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

※写真はKMK85をモデルにしています。







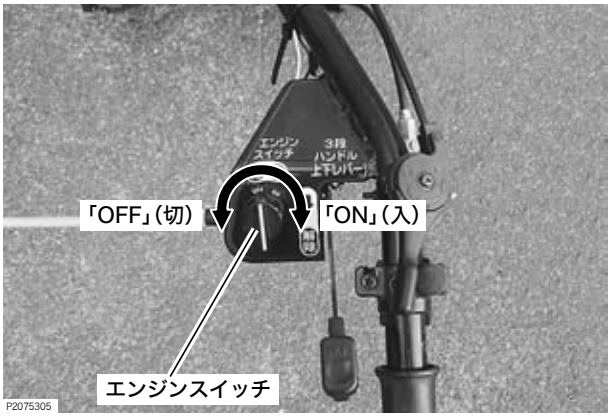
	参照ページ
1. スタンド	23
2. フロントヒッチ	42
3. 燃料ゲージ	23
4. 燃料タンク	23
5. 高速バックストッパ	20
6. 主クラッチレバー（副変速＋駐車ブレーキ）	20
7. 主変速レバー	19
8. サイドクラッチレバー	21
9. ハンドルロックレバー	22
10.リヤヒッチ	42
11.PTO軸	23・42

	参照ページ
12.ハンドル回動レバー	22
13.オイルバス式エアクリーナー	51
14.チョークレバー	18
15.ワンタッチキャブドレン	23
16.リコイルスタータ	18
17.アクセルレバー	18
18.ハンドル上下レバー	21
19.エンジンスイッチ	18
20.緊急停止ワイヤー	21・24
21.OFFレバー	21
22.充電コイルハーネス	24
23.ロータリークラッチレバー	33・34

1. エンジンコントロール関係

(1) エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。

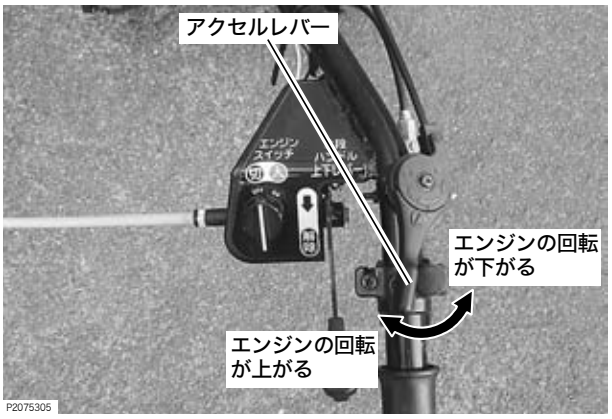


●「OFF」（切）位置……エンジンが停止する。電流が流れない。

●「ON」（入）位置 …… エンジンを連続運転する位置。（エンジン始動時）

(2) アクセルレバー

エンジン回転の上げ下げに使用します。



●「H」（高）位置……エンジン回転が上がる。

●「L」（低）位置 ……エンジン回転が下がる。

●「●」（エンジン始動）位置
……始動時に調節する位置。

(3) リコイルスタータ

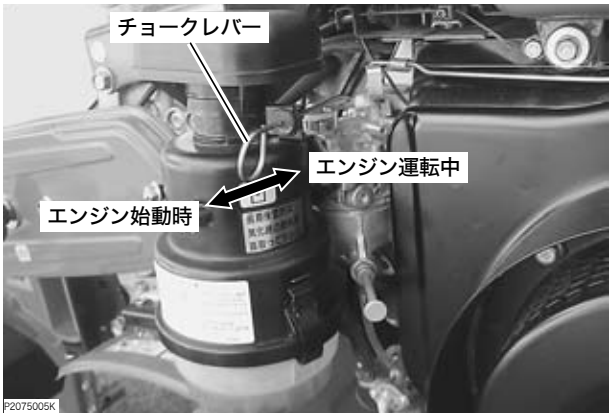
エンジンを始動するときに、引っ張って使用します。



主クラッチレバーを「切」位置にし、エンジンスイッチを「運転」位置にして、リコイルスタータを勢いよく引っ張ってください。エンジンが始動します。

(4) チョークレバー

エンジンへ供給する燃料の混合比を調節して、エンジンを始動しやすくします。



●手前に引く…… 燃料の混合比を濃くして、エンジンの始動をやりやすくする。

●押し込む…… 燃料の混合比が通常になる。
エンジン始動後は調子を見ながら徐々に押し込む。

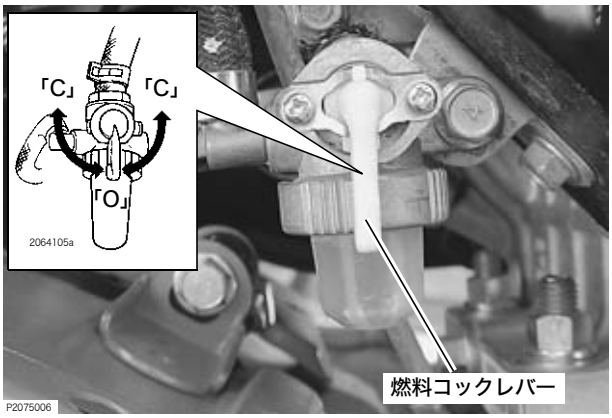
[重要]

●エンジンの始動時以外には、使用しないでください。

●エンジンが温まっているときは、使用しないでください。

(5) 燃料コックレバー

エンジンへ供給する燃料の開閉に使用します。



●「O」位置……エンジンに燃料が供給される。
（エンジン運転中）

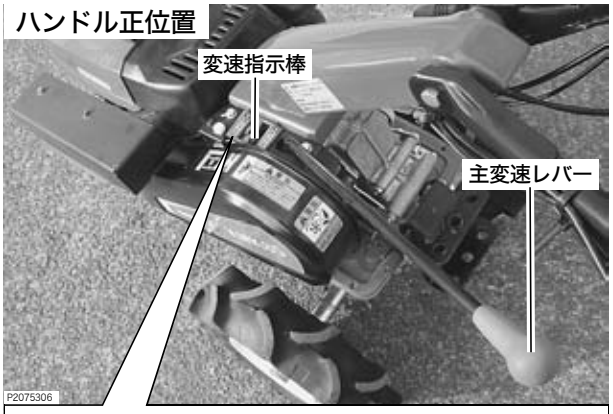
●「C」位置……エンジンに燃料が供給されない。

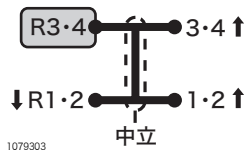
2. 走行・作業関係

(1) 主変速レバー

「前進」「後進」の進行方向と走行速度の調節に使用します。

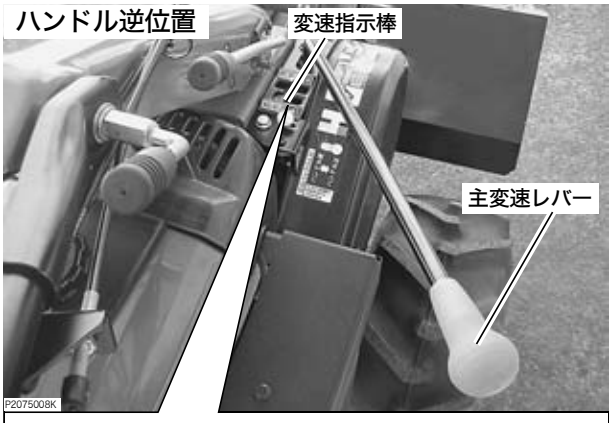
ハンドル正位置

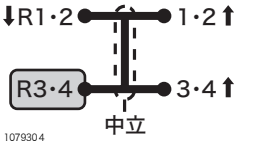




※矢印は進行方向を示します。
※□部は高速バックストッパで規制される段数です。

ハンドル逆位置





※矢印は進行方向を示します。
※□部は高速バックストッパで規制される段数です。

ハンドル逆位置で作業するときは、主変速レバーを持ち上げて、機体前方に回動してください。

[参考]

- 主変速レバーを操作すると、変速指示棒が動きます。変速指示棒の位置が、走行変速の位置を示します。
- 主変速レバーの変速位置が同じでも、主クラッチレバーの副変速「高」「低」の切り替えで、速度は変わります。

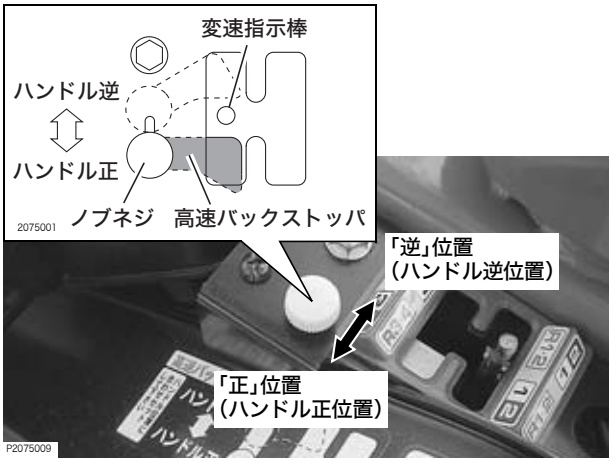
- ハンドル正位置…… 前進4段・後進2段
  （後進高速側の２段は入らないように規制する。）
- ハンドル逆位置…… 前進4段・後進2段
  （後進高速側の２段は入らないように規制する。）

[重要]

- 高速位置に入らないように、高速バックストッパを必ずセットしてください。（39ページ参照）

(2) 高速バックストッパ

高速でバック（後進）できないようにする装置です。

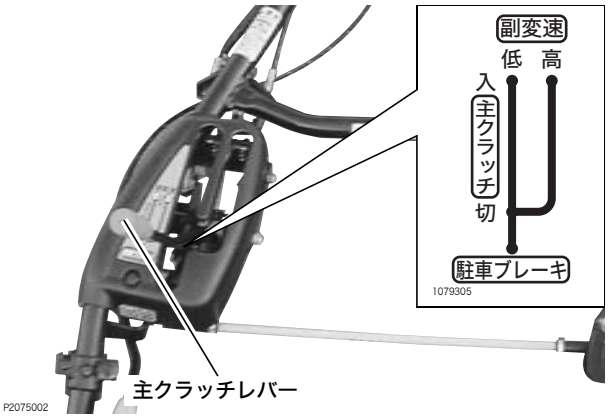


ハンドル逆位置のときは、ノブネジをゆるめて、高速バックストッパを「逆」位置にしてください。
ハンドル正位置に戻したときは、高速バックストッパを「正」位置にしてください。

(3) 主クラッチレバー（モノレバー）

1本のレバーで、下記の操作ができます。

- エンジンからミッションまでの動力を伝えたり、切ったりする。
- 副変速の「高」「低」の切り替え。
- 駐車ブレーキをかける、解除をする。



- 「駐車ブレーキ」位置……駐車ブレーキがかかる。

〈主クラッチ〉

- 「切」位置……走行部と作業部へのエンジンの動力が断たれる。
- 「入」位置……エンジンの動力が走行部と作業部に伝達される。

〈副変速〉

- 「高」側……

F2
F4
R2
R4

- 「低」側……

F1
F3
R1
R3

[重要]

- 副変速の切り替えは、アクセルレバーを「L」（低）位置にして行ってください。
- エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを「切」位置にしないと、エンジン始動けん制装置が働いて、エンジンが始動しません。

(4) OFFレバー

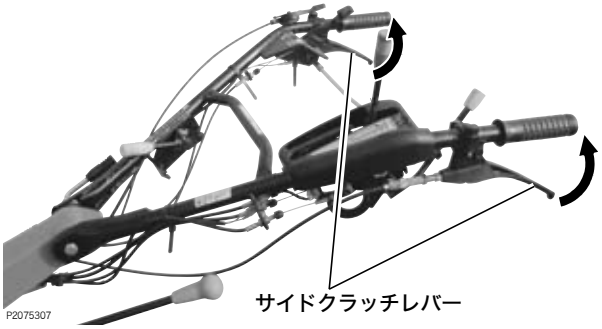
ハンドルを握ったまま、主クラッチレバーを「切」位置にするときに使用します。



主クラッチレバーが「入」位置のときに、OFF レバーを下方へ押すと、主クラッチレバーは「切」位置になります。

(5) サイドクラッチレバー

機体を旋回するときに使用します。



●右に旋回するとき ……右側のサイドクラッチレバーを握る。

●左に旋回するとき ……左側のサイドクラッチレバーを握る。

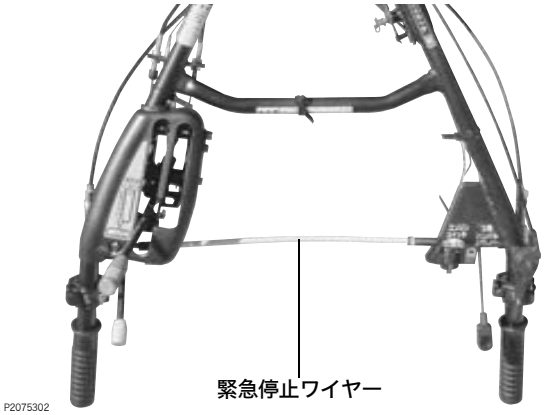
[重要]

●ハンドル逆位置にしたときは、サイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。(40 ページ参照)

3. その他

(1) 緊急停止ワイヤー

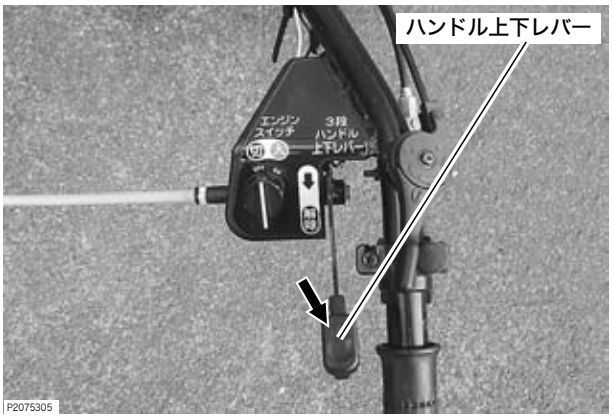
緊急停止ワイヤーを押す、または引くと、主クラッチが切れ、機械が停止します。



主クラッチレバーが「入」位置のときに、緊急停止ワイヤーを動かすと、主クラッチレバーが「切」位置に戻ります。

(2) ハンドル上下レバー

ハンドルを上下(3段階)に動かすときに使用します。



●レバーを押す……ハンドルが上下に動く。

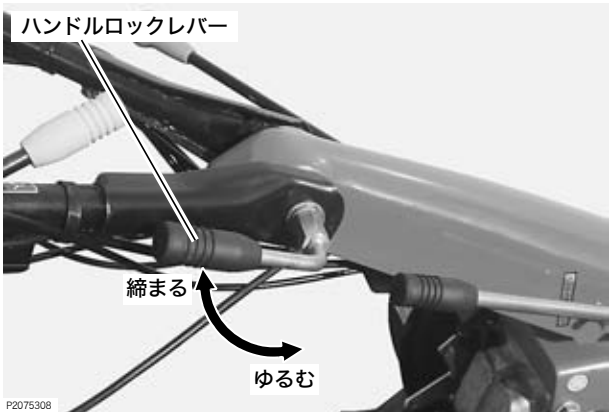
●レバーから手を離す…… ハンドルが固定される。

[参考]

●ハンドル位置が決まらないときは、ハンドルを少し上下に動かすと固定されます。(38ページ参照)

(3) ハンドルロックレバー

ハンドルの上下を調節するときに使用します。

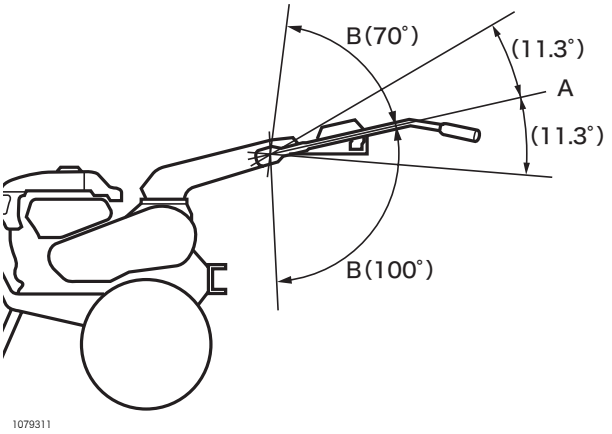


●ゆるめる……ハンドルが上下に動く。
●締める……ハンドルが固定される。

[参考]

●ハンドル高さは、ハンドルロックレバーで作業前に適正位置に調節してください。作業中は、ハンドル上下レバーで調節してください。
(37・38ページ参照)

〈ハンドルの上下調節範囲〉



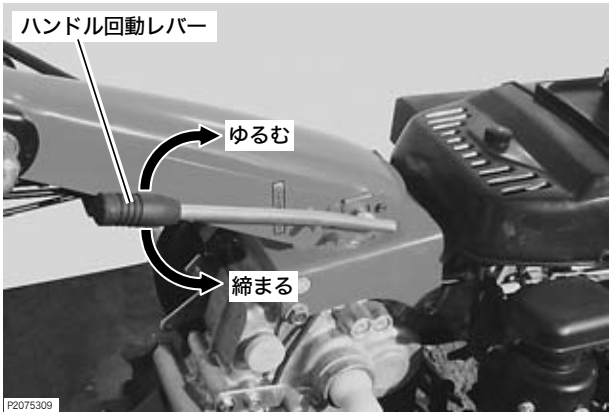
●ハンドル上下レバーでの上下調節範囲は、A の範囲で3段階行えます。
●ハンドルロックレバーでの調節は、Bの範囲で10度ごと行えます。

[重要]

●ハンドルを調節範囲外まで回さないでください。ワイヤの破損などの原因になります。

(4) ハンドル回動レバー

ハンドルを左右に回動するときに使用します。

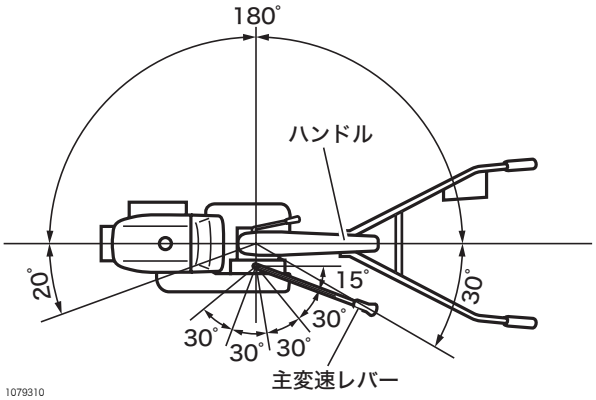


●ゆるめる……ハンドル台が左右に回動する。
●締める……ハンドル台が固定される。

[参考]

●ハンドル台の左右角度は、1段10度ピッチで動きます。最大回動角度は230度動かすことができます。(38・39ページ参照)

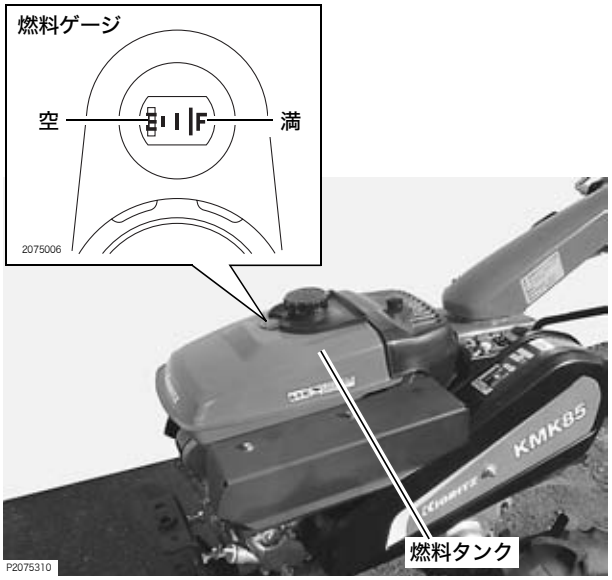
〈ハンドル・主変速レバーの回動範囲〉



●ハンドルの回動は、上図の範囲で10度ごと行えます。
●主変速レバーの回動は、上図の範囲で30度ごと行えます。

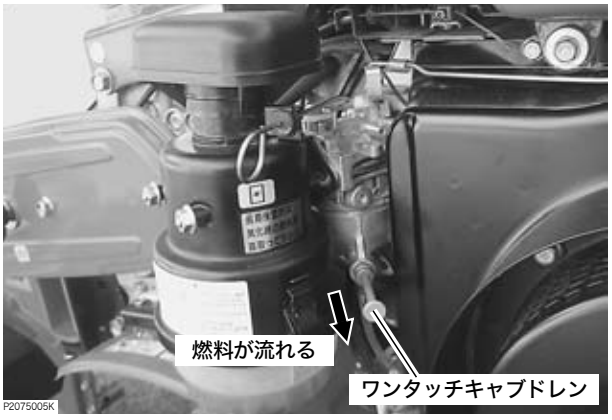
(5) 燃料ゲージ

燃料タンクの燃料の残量を確認するときに使用します。



(6) ワンタッチキャブドレン

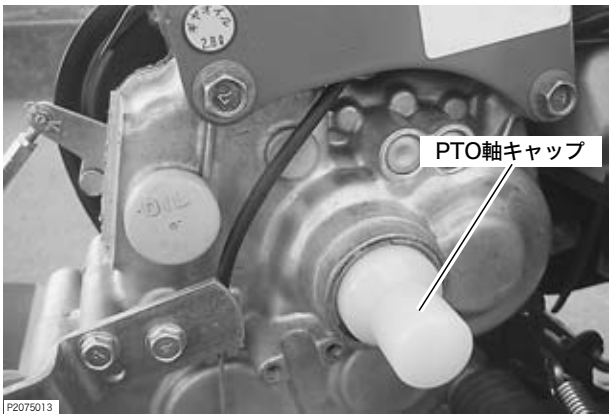
キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。



●引っ張る……燃料が出る。
●押し込む……燃料が止まる。

(7) PTO軸キャップ

作業機を装着しないときに、PTO 軸に取り付けるキャップです。

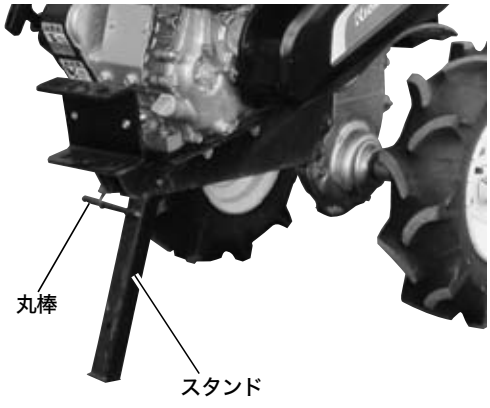


[重要]

●エンジン運転中に、主クラッチレバーを「入」位置にすると、PTO軸は回転します。安全のために必ずPTO軸にPTO軸キャップを取り付けてください。(42ページ参照)

(8) スタンド

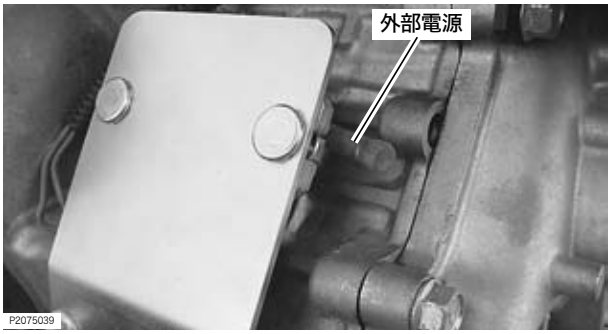
機体を停車して、手を離すと転倒するとき（作業機未装着時）に使用します。



●セット…… スタンドの丸棒を機体前方に足で押す。
●収納…… 機体を前方に押すと収納する。スタンド自体を足で後方に跳ね上げても収納できる。

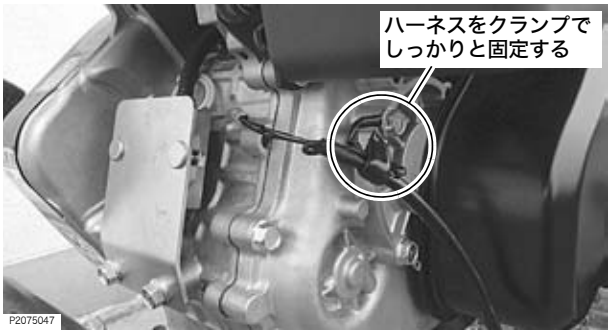
(9) 外部電源

エンジン前部に、外部電源（12V，10A）があります。外部電源を使用するときは、作業機の取扱説明書をよく読み、規定容量を越えないように使用してください。また、必ず別売のバッテリを接続して使用してください（59ページ「13章 配線図」参照）。詳しくは、バッテリの取扱説明書をよくお読みください。



[重要]

- 外部電源端子の⊕⊖を間違えないように、接続してください。
- 外部電源を使用するときは、必ずバッテリを接続して使用してください。
- 付属の充電ケーブルを使用するときは、充電ケーブルの⊕(赤)⊖(黒）と、バッテリの⊕⊖側を間違えないように接続してください。
- 配線のとき、ハーネスがエンジンのエッジ部に接触しないように取り付けてください。ショートのおそれがあります。
  付属のクランプとボルトで、アース端子と共締めしてください。



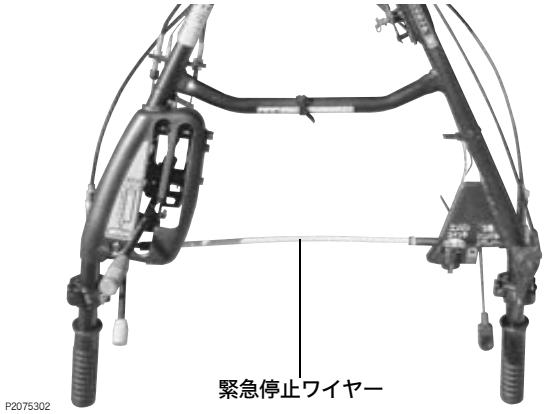
⚠危険

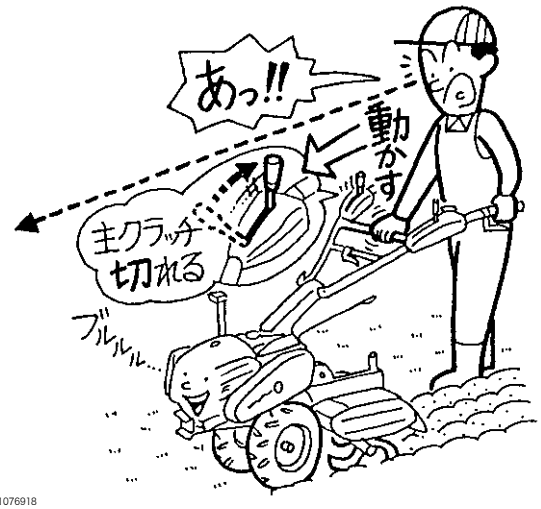
- バッテリの取り付け・取り外しは正しい手順で。
  バッテリのケーブル端子を取り付けるときは⊕側を先に取り付け、取り外すときは⊖側から取り外します。守らないと、ショートして、火傷や火災事故の原因となります。

緊急時の停止方法について

⚠警告

- 本機をご使用になる前には、必ず、緊急停止ワイヤーを動かして、主クラッチレバーが「切」位置に戻ることを確認してください。万一、緊急停止ワイヤーを動かしても主クラッチレバーが「切」位置に戻らない場合は、本機の使用を中止し、直ちにご購入先に修理を依頼してください。作動しないと、事故やケガをまねくおそれがあります。





主クラッチレバーが「入」位置のときに緊急停止ワイヤーを動かすと、主クラッチレバーが「切」位置に戻ります。走行中のときは、機体が停止します。

5章　運転前の準備

⚠危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

⚠警告

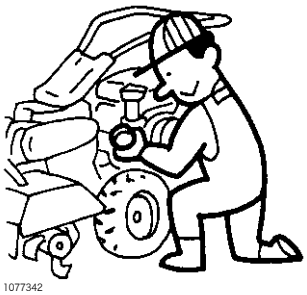
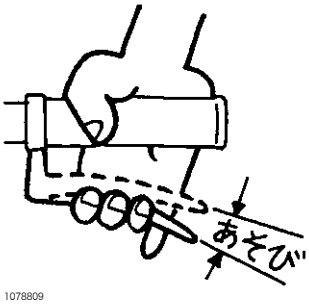
- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

- 点検・整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬケガを負うおそれがあります。また、過熱部分が冷めてから行ってください。過熱部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。

1. 本機の点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところがありませんか	
本機の周りを回ってみて  1077342	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ●燃料の量と燃料もれはありませんか ●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか ●エアクリーナーの汚れはありませんか ●タイヤの空気圧・損傷・摩耗はありませんか ●走行部と作業部のミッションオイルの量と汚れ、油もれはありませんか ●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか ●ベルトの損傷はありませんか ●マフラーなどの過熱部分のほこりやゴミはありませんか	54 26・55 27・50 51 55 27・50 55
レバーを操作してみて  1078809	●サイドクラッチレバーの遊び量は適正ですか ●ひっかかりのない、確実でスムーズな動作をしますか ●緊急停止ワイヤーを動かすと、主クラッチレバーが「切」位置に戻りますか	52 52〜54 24
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異常な音がしませんか ●排気ガスは正常な色（透明または薄い青紫色）をしていますか ●エンジンスイッチを停止位置にして、エンジンが停止しますか	30

2. 燃料の点検･補給のしかた

⚠危険

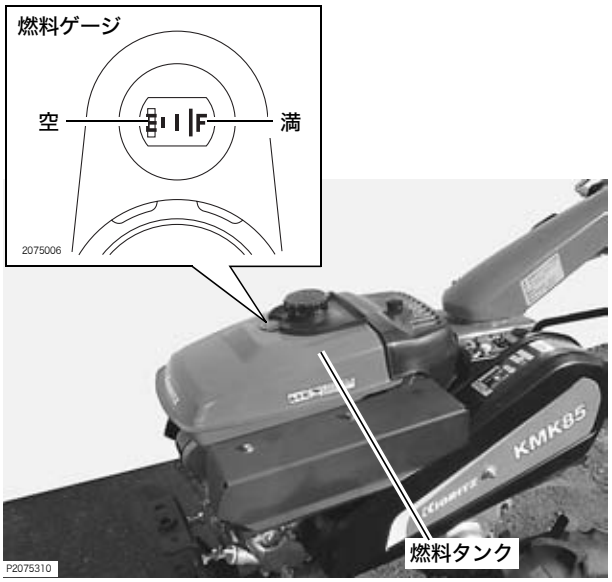
●燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
・エンジンは必ず止めて補給してください。
・タバコなどの火気を近づけないでください。
・こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
●エンジン回転中やマフラーが熱い間は火災のおそれがありますので、給油はしないでください。
●規定量よりも入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火し、やけどや火災の原因になります。
●燃料補給作業は機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してから行ってください。
静電気の放電による火花が、気化したガソリンに引火し、火災や爆発のおそれがあります。
●燃料はフィルタを通して補給してください。
ゴミ等がつまり、燃料もれのおそれがあります。

[重要]

●ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置したりすると、環境汚染につながります。
ガソリンの処分は、販売店に相談してください。

〈点検のしかた〉

1. 燃料タンク上面の燃料ゲージで､燃料の残量を調べてください。



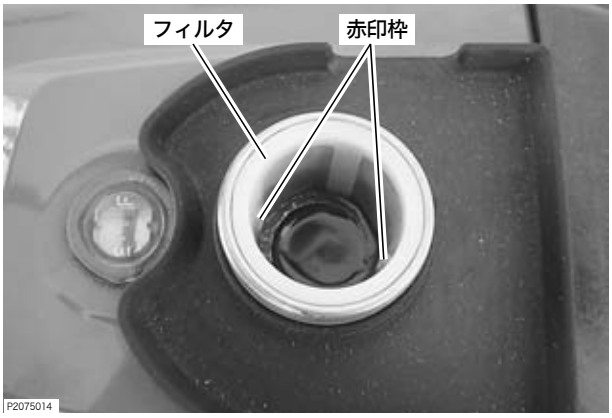
2. 不足している場合は、補給してください。

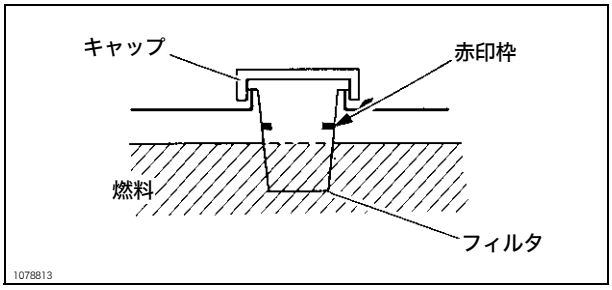
[参考]

●点検時に、燃料もれのないことも確認してください。
●混合ガソリンや軽油・灯油、粗悪ガソリンなどを補給したり不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
●ガソリンは自然に劣化しますので、購入後 1 か月以上保管したガソリンは使用しないでください。

〈補給のしかた〉

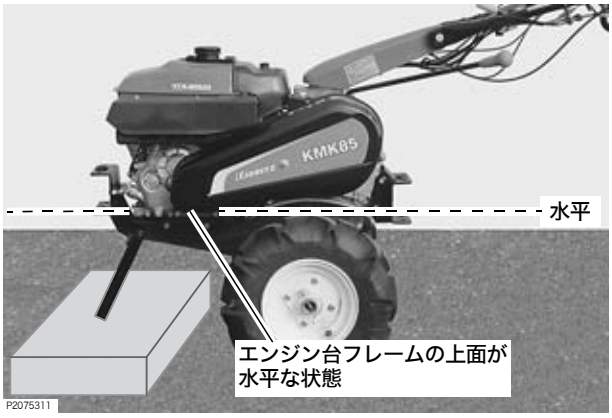
1. 燃料キャップ取り外して、燃料（ガソリン）を補給してください。
2. フィルタにゴミが詰っていないか点検してください。
3. フィルタに付いている赤印枠（規定量）より、ひかえめに入れてください。
4. 補給後は､燃料キャップを確実に締め付けてください。





3. オイルの点検・補給のしかた

オイルの点検・補給をするときは、スタンドの下に板を敷くなどして、本機を水平な状態にしてから行ってください。



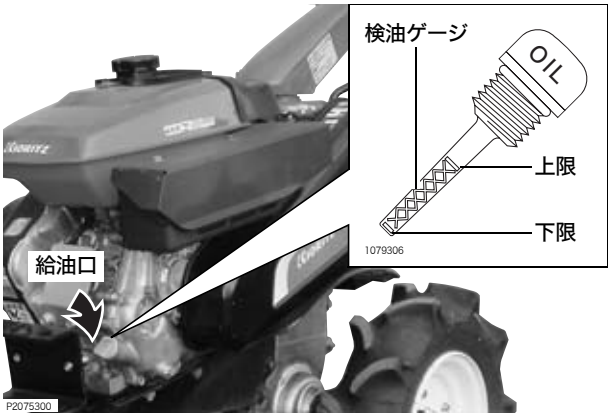
エンジンオイル

〈点検のしかた〉

1. 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージをきれいに拭いてください。
2. 給油口のふたを給油口に差し込み、もう一度抜き出して、検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。

[重要]

●点検時には、給油口のふたをねじ込まずに検油してください。



3. 検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあれば規定量です。
4. 給油口に給油口ふたを取り付けてください。

[参考]

●点検時に、オイルもれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉

不足している場合は、下記の要領で補給してください。

1. 給油口のふたを取り外してください。
2. 給油口から規定量になるまで、補給してください。
3. 補給後は、給油口のふたを元通りに取り付けてください。

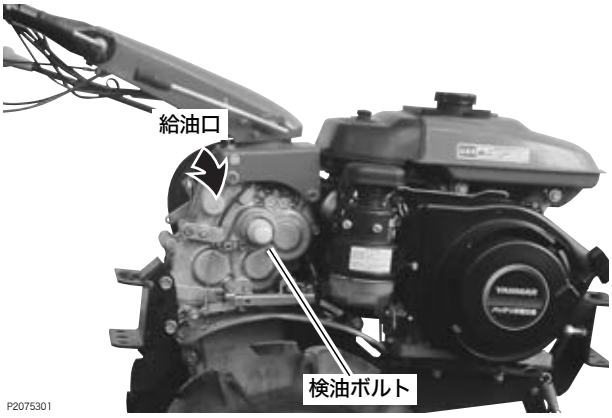
[重要]

●給油するオイルは、必ず指定オイルを使用してください。（48ページ参照）

走行ミッションオイル

〈点検のしかた〉

1. 検油ボルトを外して、検油口の口元からオイルが流れ出ることを点検してください。
2. 口元からオイルが流れ出ていれば規定量です。
3. 検油口に検油ボルトを取り付けてください。



[参考]

●点検時に、オイルもれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉

不足している場合は、下記の要領で補給してください。

1. 検油ボルトを取り外してください。
2. 給油口のふたを外して、給油口から検油口の口元まで補給してください。
3. 補給後は、検油口に検油ボルトを取り付けてください。
4. 給油口にふたを取り付けてください。

⚠警告

●作業時以外は、ロータリークラッチレバーを「切」位置にしてください。(ロータリー装着時)
また、作業中でも、旋回時やバック時は、ロータリークラッチレバーを「切」位置にしてください。ロータリーが回転したまま行うと、ケガをするおそれがあります。標準ロータリー装着時は、バックけん制装置を確実にセットしてください。

●エンジンの暖機運転は、閉めきった室内では行わないでください。守らないと、排ガス中毒の原因になります。

●エンジン始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。思わぬ事故をまねくおそれがあります。

●エアクリーナーのエレメントは必ず取り付けて始動・運転してください。
逆火により炎がふき出すおそれがあります。

⚠注意

●エンジンをかけるときや作業中は、他の人を本機に近づけないようにしてください。守らないと、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

●エンジンをかけるときは、ロータリー部の周りに物を置かないでください。万一、ロータリーが回転したとき、接触した物を飛ばすおそれがあります。

●エンジンが熱い間は、エンジンマフラーなどの過熱部分には、手を触れないでください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

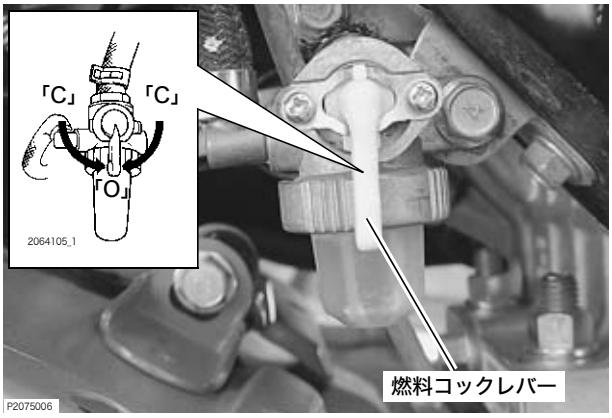
[重要]

●本製品は、小型特殊自動車の認定を受けていません。トレーラ走行はしないでください。

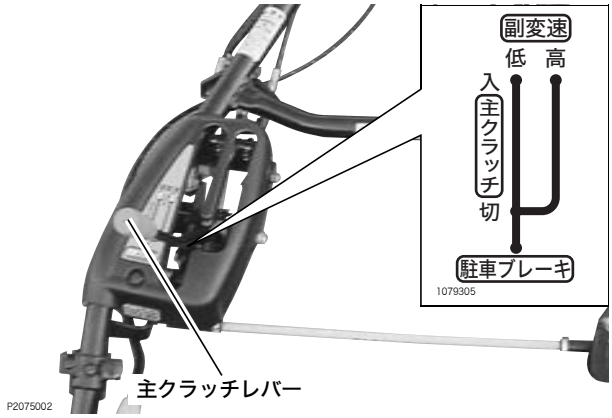
1. エンジンの始動のしかた

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O」位置にしてください。



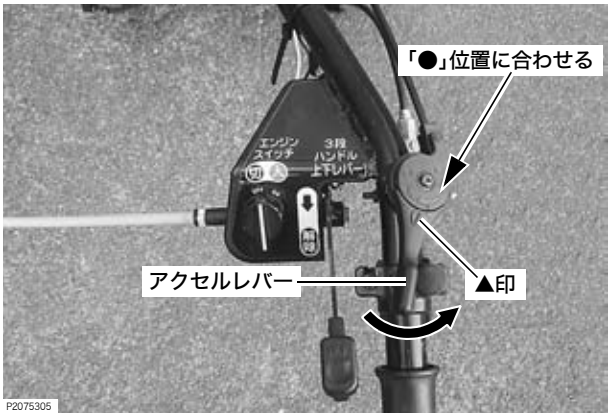
2. 主クラッチレバーを「切」位置にしてください。



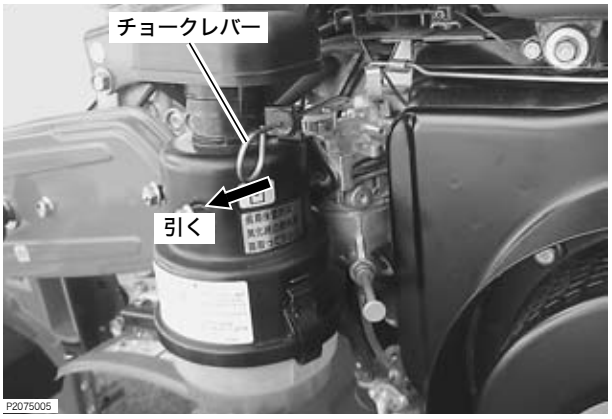
3. 主変速レバーを「中立」位置にしてください。



4. アクセルレバーの▲印を「●」（エンジン始動）位置に合わせてください。



5. チョークレバーを引いてください。

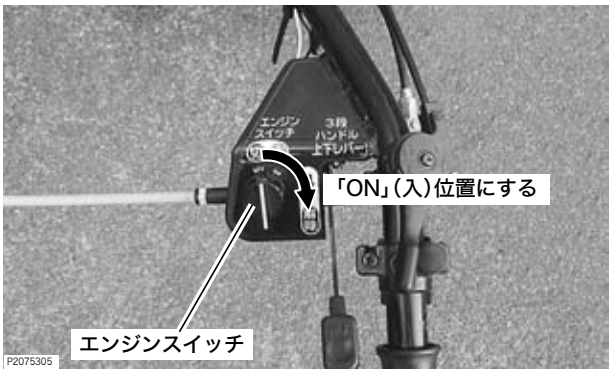


[重要]

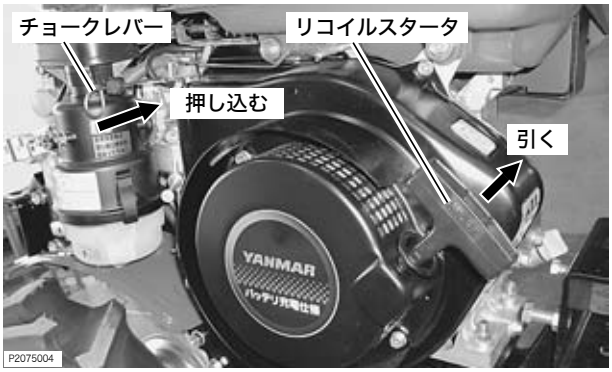
- チョークレバーは、エンジン始動時以外には使用しないでください。
- エンジンが温まっているときは、チョークレバーを使用しないでください。

エンジン始動操作のしかた

1. エンジンスイッチを「ON」（入）位置にしてください。

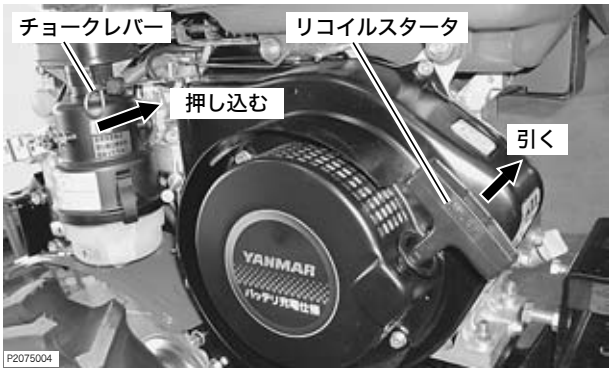


2. リコイルスタータを勢いよく引っ張ってください。エンジンが始動します。
3. エンジンの回転状態を見ながら、チョークレバーを徐々に押し込んでください。



リコイルスタータを2～3回引っ張っても、エンジンが始動しないときは

1) チョークレバーを押し込んでください。
2) 再度、リコイルスタータを引っ張ってください。



[重要]

- リコイルスタータを何回も引き続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。

2. 暖機運転のしかた

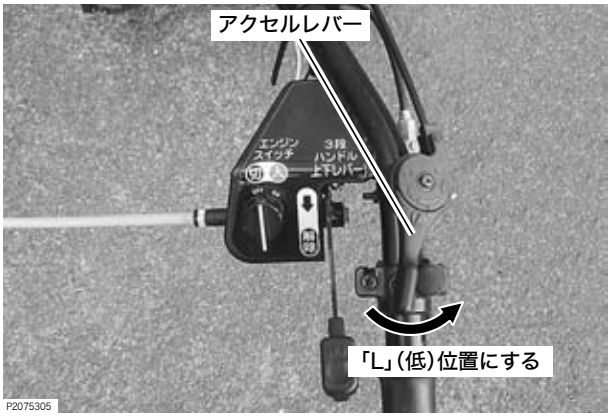
⚠警告

●エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった室内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。排気ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。

⚠注意

●暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。機械が動き出したりして、傷害事故の原因になります。

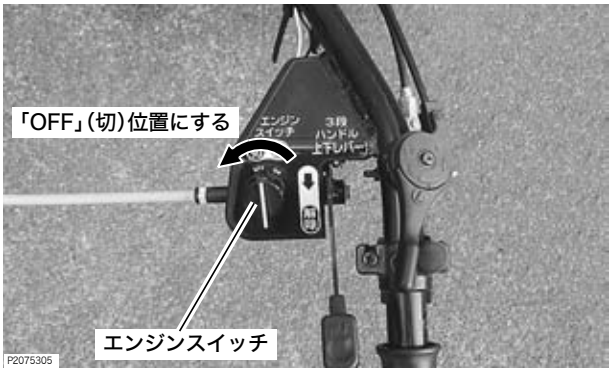
1. 駐車ブレーキをかけてください。
   (35ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
   (28・29ページ参照)
3. アクセルレバーを「L」(低) 位置にしてください。エンジン回転が下がります。



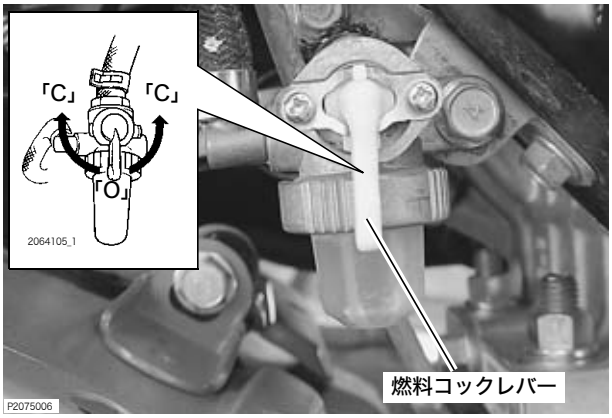
4. 約5分間は、エンジンをかけたままにしておいてください。

3. エンジンの停止のしかた

1. アクセルレバーを「L」(低) 位置にしてください。
2. エンジンスイッチを「OFF」(切) 位置にしてください。エンジンが停止します。



3. 燃料コックレバーを「C」位置にしてください。

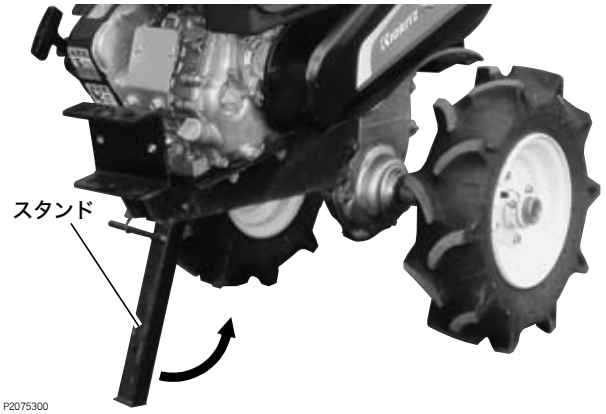


4. 発進のしかた

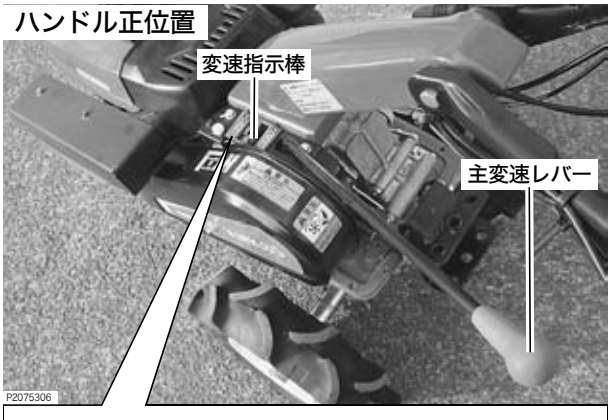
⚠警告

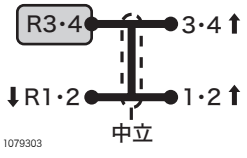
- 発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分にスピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。
- 後進時は低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、ケガのおそれがあります。
- 発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。守らないと、思わぬ事故、ケガをまねくおそれがあります。

1. スタンドを収納してください。



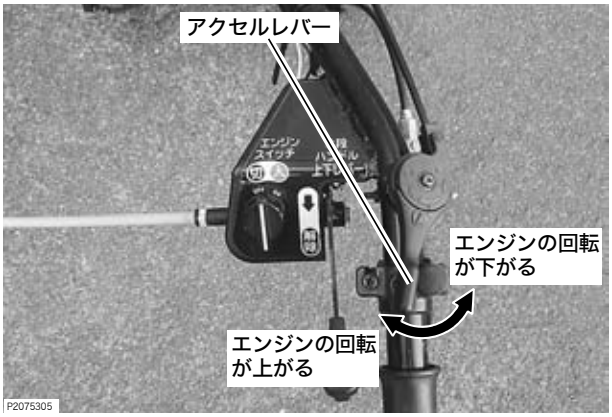
2. 主変速レバーを前進または後進の希望の速度を選んでください。



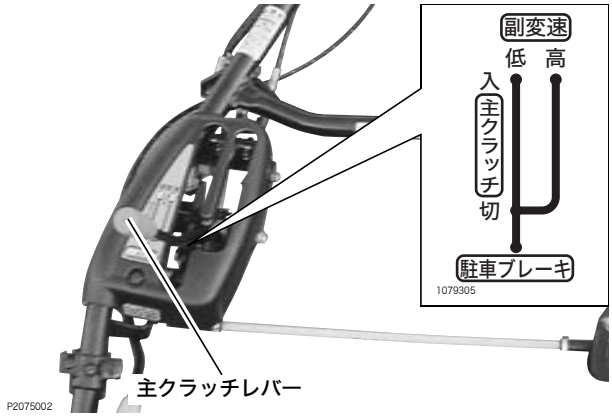


※矢印は進行方向を示します。
※□部は高速バックストッパで規制される段数です。

3. アクセルレバーでエンジン回転を調節してください。



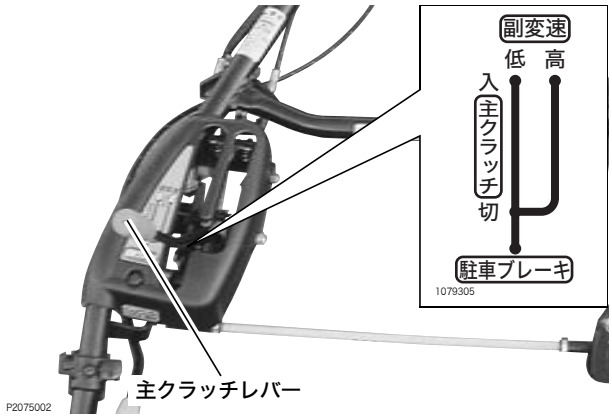
4. 主クラッチレバーを副変速の「高」「低」いずれか選び、主クラッチの「入」位置にしてください。機体が発進します。



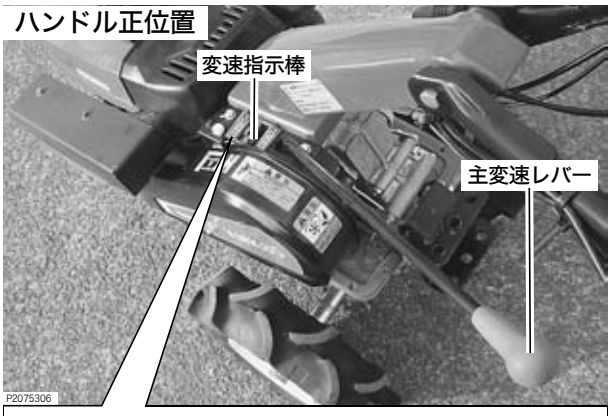
5. 変速のしかた

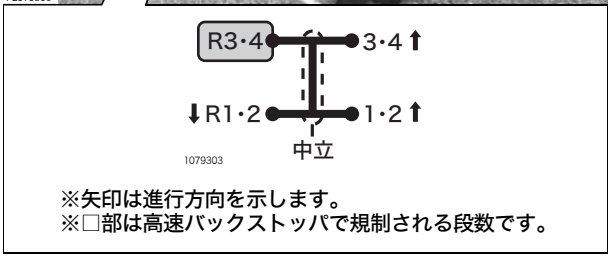
作業の途中で変速する場合は、下記の要領で行ってください。

1. 主クラッチレバーを「切」位置にしてください。



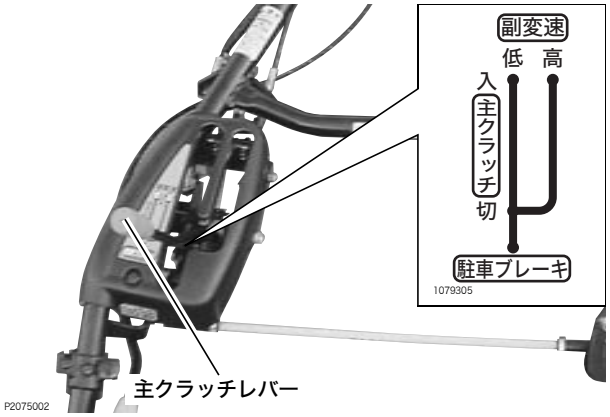
2. 主変速レバーを希望の変速に入れ替えてください。





※矢印は進行方向を示します。
※□部は高速バックストッパで規制される段数です。

3. 主クラッチレバーを「入」位置にして再発進してください。



〈速度段と標準作業表〉

ハンドル正位置

変速段	主変速	副変速	作　　業
1	前進 1・2	低	揚土覆土・溝掘り
2		高	中耕除草・揚土覆土・施肥・播種
3	前進 3・4	低	中耕培土・けん引培土
4		高	車軸耕うん・移動
R1	後進 1・2	低	移動
R2		高	移動

ハンドル逆位置

変速段	主変速	副変速	作　　業
1	前進 1・2	低	揚土覆土・溝掘り
2		高	揚土覆土
3	前進 3・4	低	移動
4		高	移動
R1	後進 1・2	低	畦立て・マルチ・移動
R2		高	移動

6. 旋回のしかた

路上での旋回のしかた

⚠警告

- **坂道で旋回する場合や、わずかに進路を変更する場合は、ハンドルを振って行ってください。サイドクラッチレバーを操作すると、機械の自重で思わぬ方向に旋回してしまうことがあります。**

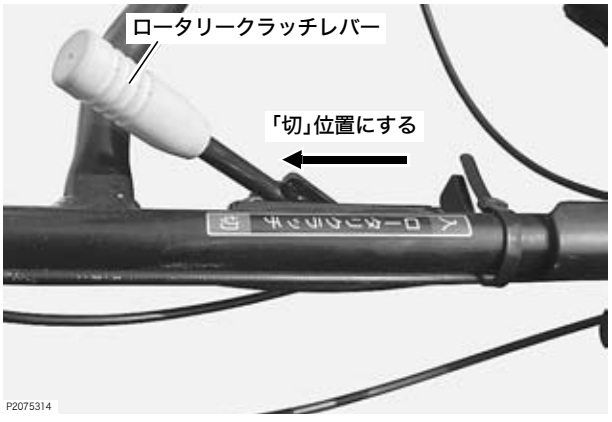
- ハンドルを持ち上げて、旋回したい側のサイドクラッチレバーを握ってください。旋回します。
- 坂道で旋回する場合と、わずかに進路を変更する場合は、ハンドルを振って旋回してください。

作業中の旋回のしかた

⚠注意

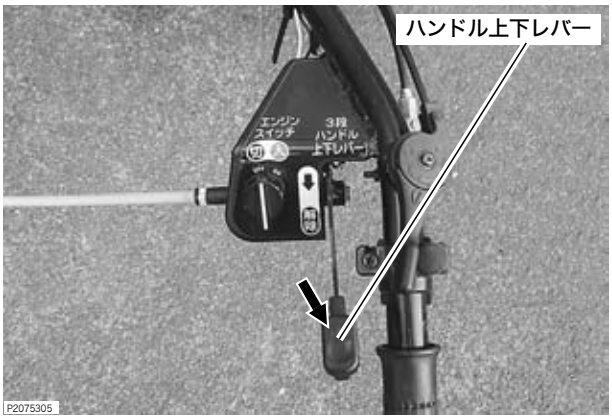
- **ハンドル逆位置にしたときは、サイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。サイドクラッチレバーの切れる方向が左右逆になり、サイドクラッチレバーを「切」位置にしたときに、機体が逆方向に旋回し、事故やケガのおそれがあります。**

1. ロータリーを装着している場合は、ロータリークラッチレバーを「切」位置にして、ロータリーの回転を止めてください。

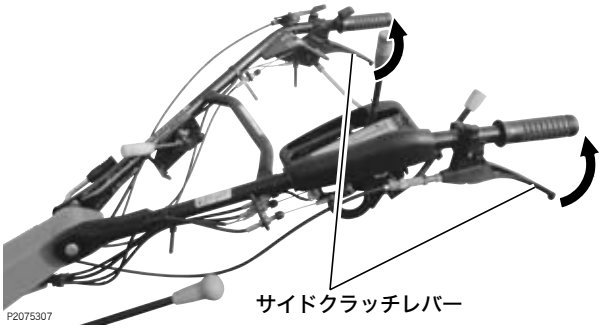


〈ハンドル正位置のときの旋回のしかた〉

1) ハンドル上下レバーを押して、ハンドルを下げてください。

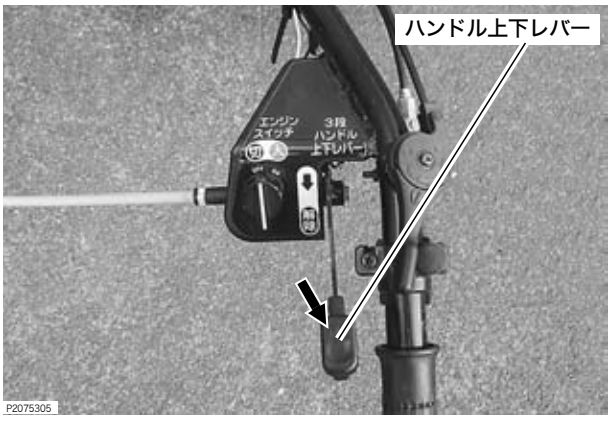


2) ハンドル上下レバーから手を離して、ハンドルを固定してください。
3) ハンドルを持ち上げて、旋回したい側のサイドクラッチレバーを握って、旋回してください。



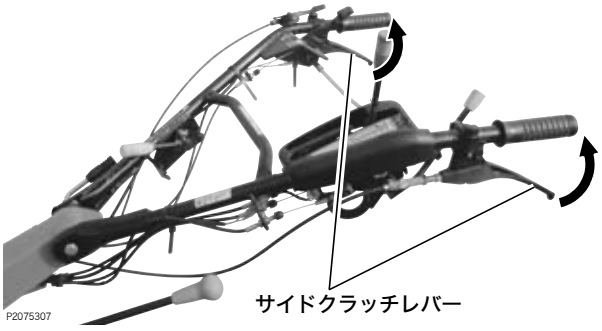
〈ハンドル逆位置のときの旋回のしかた〉

1) ハンドル上下レバーを押して、ハンドルを上げてください。

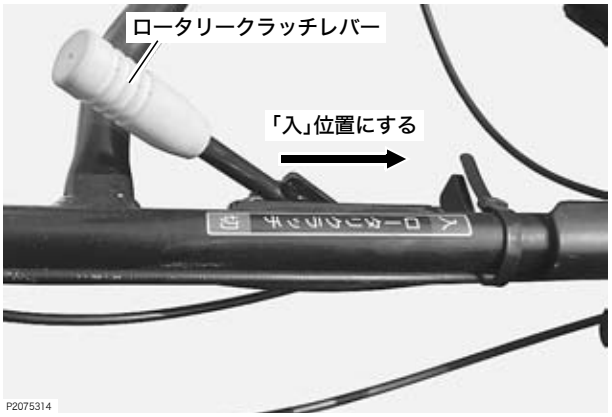


2) ハンドル上下レバーから手を離して、ハンドルを固定してください。

3) ハンドルを押し下げて、旋回したい側のサイドクラッチレバーを握って、旋回してください。



2. 旋回終了後は、ハンドル上下レバーで再びハンドルを元の高さに戻してください。
3. ロータリーを装着している場合は、ロータリークラッチレバーを「入」位置にして、作業を再開してください。



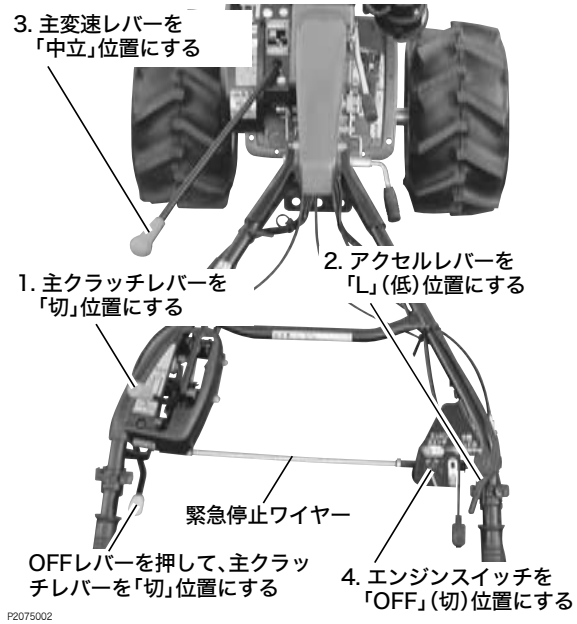
7. 停車のしかた

1. 主クラッチレバーを「切」位置にしてください。機体が停止します。

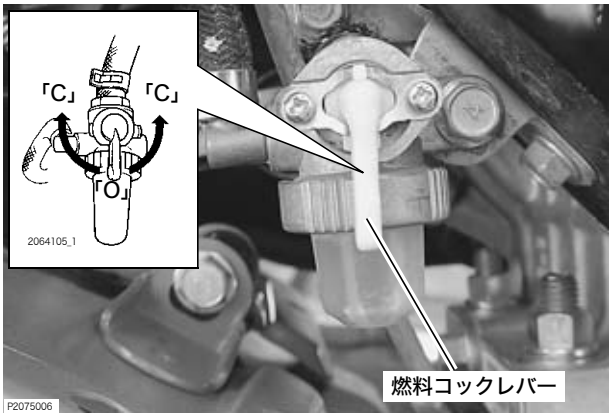
[参考]

- ハンドルから手を離さずに、OFFレバーを押しても主クラッチが切れます。
- 緊急の場合は、緊急停止ワイヤーを押すか、引っ張って主クラッチレバーを「切」位置にしてください。

2. アクセルレバーを「L」(低) 位置にしてください。エンジン回転が下がります。
3. 主変速レバーを「中立」位置にしてください。
4. エンジンスイッチを「OFF」(切) 位置にしてください。エンジンが停止します。



5. 燃料コックレバーを「C」位置にしてください。

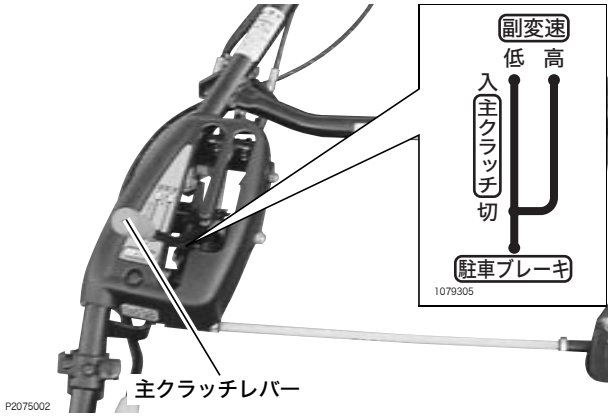


8. 駐車のしかた

⚠注意

●やむを得ず坂道で駐車するときは駐車ブレーキをかけ、タイヤに車止めをしてください。守らないと、万一機械が動き出した場合、事故のおそれがあります。

1. 機体を、平坦で安全な場所に移動してください。
2. スタンドを立ててください。
3. エンジンを停止してください。(30ページ参照)
4. 主クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。



9. トラックでの運搬のしかた

⚠危険

●アユミ板の上では絶対に、サイドクラッチレバーを操作しないでください。また、主クラッチレバーも「切」位置にしないでください。守らないと、転倒、転落により思わぬ事故のおそれがあります。万一、落ちそうになったら、ハンドル操作で修正してください。

⚠警告

●積み・降ろしの場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故やケガをまねくおそれがあります。

●本機の前後には人を立たせないようにしてください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故をまねくおそれがあります。

●積み込みは前進方向1速で、降ろしは後進方向1速で行ってください。さらに、アクセルレバーは「L」(低)位置にし、エンジンブレーキを十分にきかせて、ゆっくりと行ってください。守らないと、転倒、転落により思わぬ事故のおそれがあります。

●左右のタイヤがアユミ板の中央の位置を通るようにしてください。守らないと、転落・転倒による事故をまねくおそれがあります。

●本機がアユミ板と荷台などの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒、転落による思わぬ事故のおそれがあります。

●トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらにタイヤには「車止め」をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突っ込みによる重大な事故をまねくおそれがあります。

(1) アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

アユミ板は基準に合った、十分な強度のあるものをご使用ください。

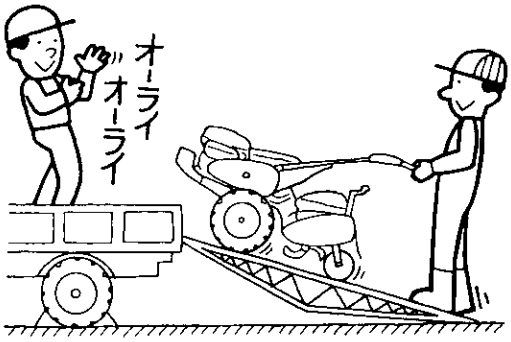
- ●長さ…車の荷台高さの4倍以上。
- ●幅……管理機の車輪幅に合ったもの。
- ●強度…管理機の重量に十分耐えられるもの。
- ●表面…すべらないように処理してあるもの。

(2) トラックの準備

1. トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
3. タイヤに車止めをしてください。
4. トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように、確実に掛けてください。

(3) 本機の積み込みかた

1. エンジンを始動してください。
   (28・29ページ参照)
2. 本機は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。
3. 主変速レバーを前進の「1速」位置にしてください。
4. 主クラッチレバーを副変速「低」側の主クラッチ「入」位置にしてください。



1078821

(4) トラックに積み込んだら

1. エンジンを停止してください。(30ページ参照)
2. スタンドを立ててください。
3. フレームなどのしっかりした部分に、十分強度のあるロープを掛けて、機体を確実に固定してください。
4. 主クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。

(5) 本機の降ろしかた

1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
3. スタンドを収納してください。
4. 主変速レバーを後進の「1速」位置にしてください。
5. 主クラッチレバーを副変速「低」側の主クラッチ「入」位置にしてください。

⚠警告

●作業中にロータリーが石を噛んだり、固い地面にロータリーを急に降ろすと、回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す（ダッシュ）ことがあります。特に川や崖、人のいる方向に飛び出すと、転落や人身事故をまねくおそれがあります。

●ロータリー部が作業者の直前にあるような後退作業は厳禁です。必ずハンドルを180度ターンして前進で作業してください。ケガのおそれがあります。

●調節を行うときは、平坦で安定した場所で駐車ブレーキをかけて行ってください。守らないと、機械が転倒して、思わぬケガをするおそれがあります。

⚠注意

●調節を行うときは、エンジンを停止させてください。守らないと、思わぬケガを負うおそれがあります。また、過熱部分が冷めてから行ってください。過熱部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。

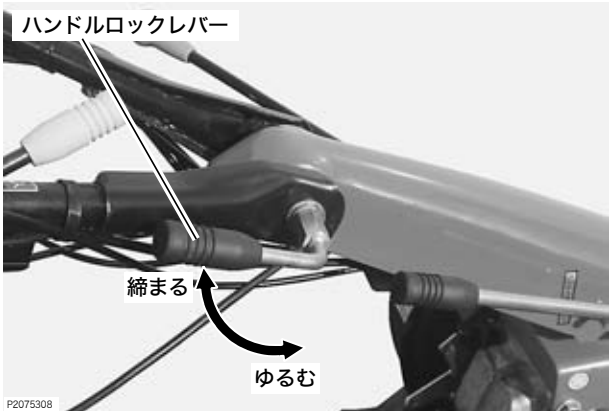
1. ハンドルの高さ調節のしかた

ハンドルの高さを作業や体格に合わせて、上下に調節することができます。

ハンドルの高さを小きざみに調節するとき

作業前に、ハンドルの高さを調節するときに使用します。

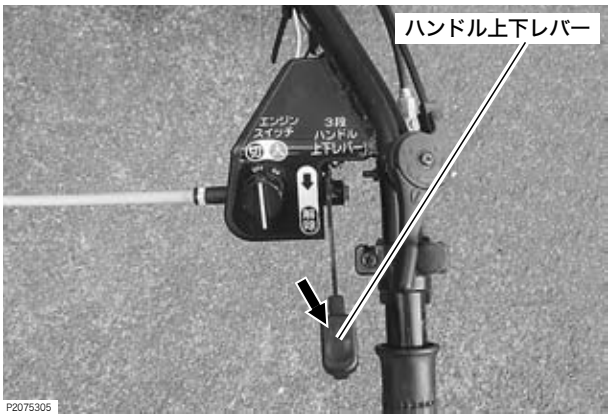
1. ハンドルロックレバーをゆるめてください。
2. ハンドルを希望の高さに調節してください。
3. ハンドル位置が決まったら、ハンドルロックレバーを固定してください。



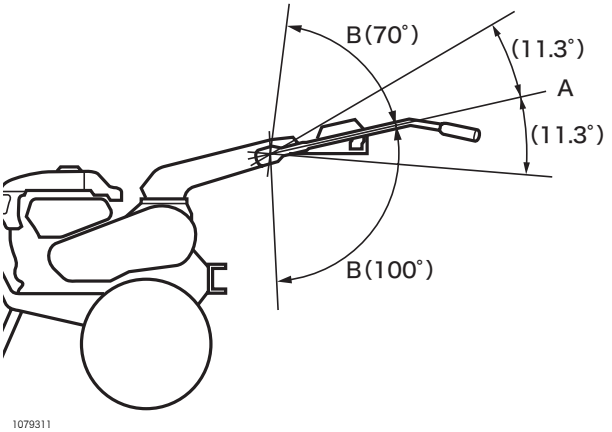
ハンドルの高さを手元で調節するとき

作業中または旋回時（33・34 ページ参照）に、ハンドルの高さを調節するときに使用します。

1. ハンドル上下レバーを押してください。
2. ハンドルを希望の高さに調節してください。
3. ハンドル上下レバーから手を離してください。
4. ハンドルを少し上下に動かしてください。ハンドルが固定されます。



〈ハンドルの上下調節範囲〉



- ハンドル上下レバーでの上下調節範囲は、A の範囲で3段階行えます。
- ハンドルロックレバーでの調節は、Bの範囲で10度ごと行えます。

[重要]

- ハンドルを調節範囲外まで回さないでください。ワイヤの破損などの原因になります。

2. ハンドル台の回動のしかた

⚠警告

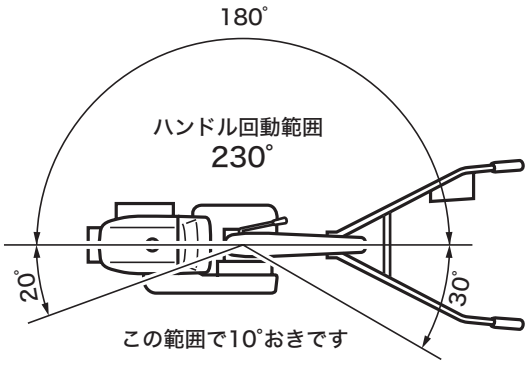
- ロータリー装着時に、ロータリーが作業者の直前にあるような後進作業は厳禁です。必ずハンドルを 180 度ターンして、前進で作業してください。ケガをするおそれがあります。

ハンドル台の回動のしかた

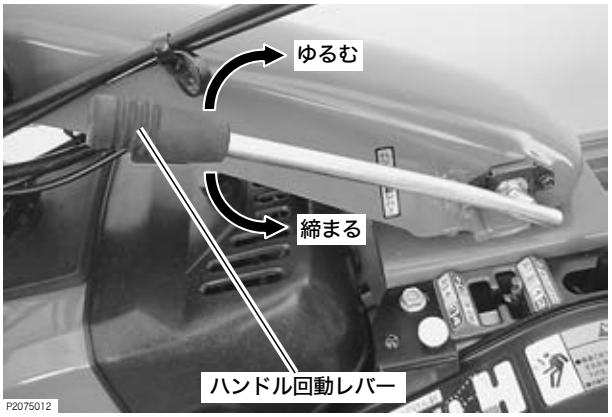
⚠警告

- 内盛整形などの作業でハンドル逆位置にした場合は、作業者が後ろ向きに高速（3・4速）で進むと思わぬ事故やケガをまねくおそれがあります。後ろ向きで作業をするときは、必ず高速バックストッパをセットして、高速位置に入らないようにしてください。(39ページ参照)

ハンドル台は、10度おきに調節できます。
うね作り・マルチ作業・あぜ際・ハウス支柱際などの作業跡が歩きにくいときなど、また後進作業のときに使用すると便利です。



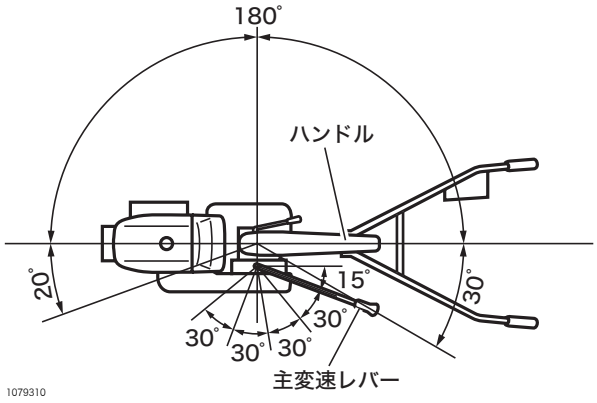
1. ハンドル回動レバーをゆるめてください。
2. ハンドル台を左右に回動してください。
3. 希望のハンドル位置で、ハンドル回動レバーを固定してください。



[参考]

- ハンドル台の固定方式は、菊座・カム方式を使用しているので、ハンドル回動レバーを下に押えるだけで、確実に固定できます。
- ハンドル逆位置にしたときは、主変速レバーも回動してください。（39ページ参照）

〈ハンドル・主変速レバーの回動範囲〉



- ハンドルの回動は、上図の範囲で10度ごと行えます。
- 主変速レバーの回動は、上図の範囲で30度ごと行えます。

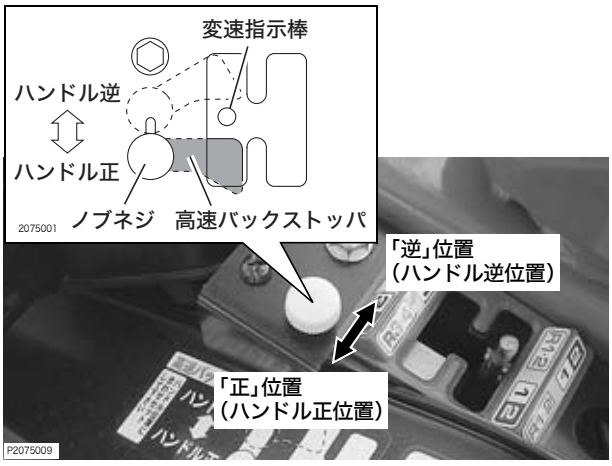
[重要]

- ハンドル回動時には、ワイヤなどの巻き込みに注意してください。

3. 高速バックストッパのセットのしかた

高速でバック（後進）できないようにする装置です。

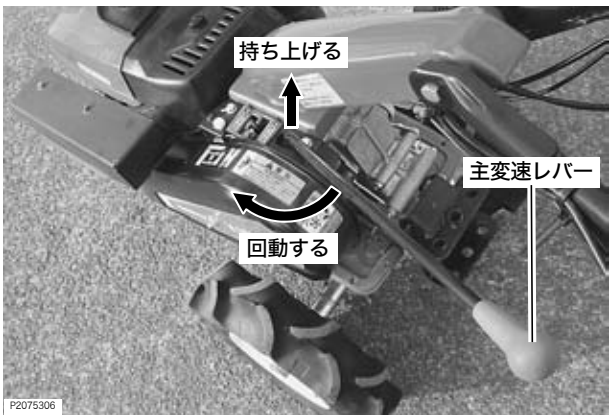
1. ノブネジをゆるめてください。
2. ハンドル逆位置のときは、高速バックストッパを「逆」位置にしてください。
   ハンドル正位置のときは、高速バックストッパを「正」位置にしてください。
3. ノブネジを締め付けて固定してください。



4. 主変速レバーの回動のしかた

ハンドル台の回動した位置に合わせて、主変速レバーを操作しやすい位置に調節できます。

1. 主変速レバーの曲部を持ち上げてください。
2. 操作しやすい位置に降ろしてください。



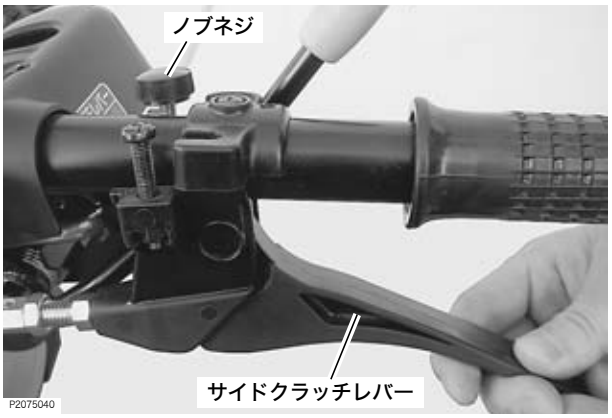
5. サイドクラッチレバーの左右の入れ替えかた

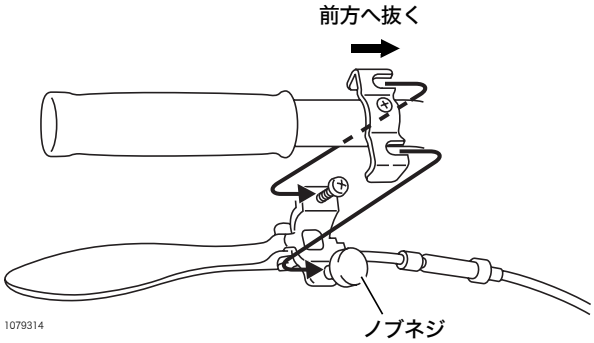
⚠注意

●ハンドルを正位置・逆位置に回動したときは、サイドクラッチレバーの切れる方向が逆になります。サイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。

ハンドルを正位置・逆位置に回動したときは、サイドクラッチレバーの切れる方向が逆になります。サイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。

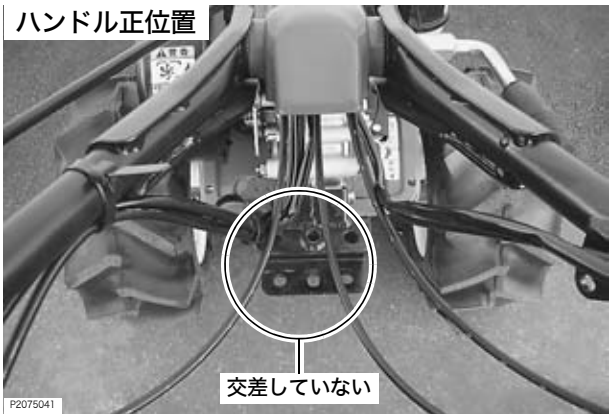
1. 左右のサイドクラッチレバーのノブネジをゆるめて、前方へスライドさせて、取り外してください。





2. ハンドルを回動してください。(38・39 ページ参照)
3. 左右のサイドクラッチレバーを入れ替えて、ノブネジでサイドクラッチレバーを締め付けて固定してください。

〈サイドクラッチレバー入れ替え後のワイヤーの状態〉





6. 車軸と車輪幅の調節のしかた

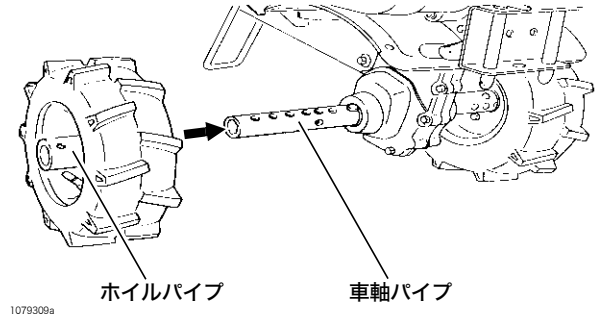
作業に合わせて、車輪幅を調節してください。

[参考]

● 車軸に直接、カルチ車輪などを取り付ければ、狭いうね間作業もできます。

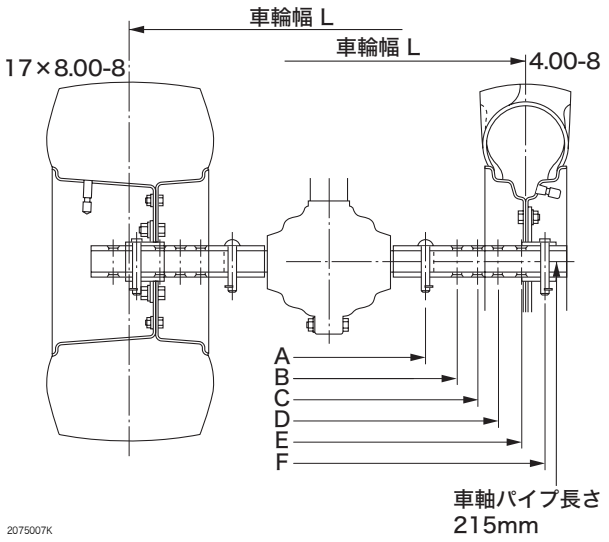
〈調節のしかた〉

1. タイヤのリンチピンを外してください。
2. 希望の車輪幅になるように車軸の穴にタイヤを合わしてください。
3. リンチピンを差し込んで固定してください。





車輪幅



(mm)

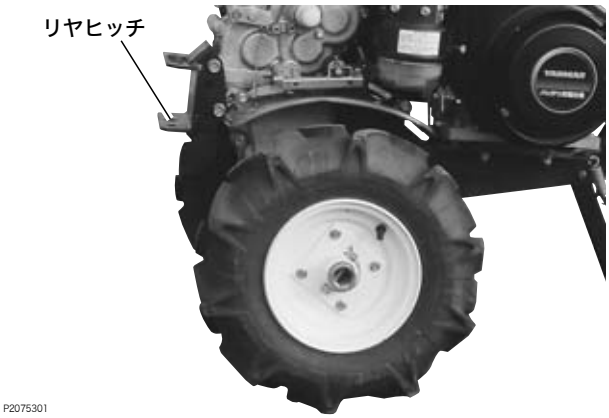
ピン穴位置	ホイルパイプ向	4.00-8	17×8.00-8
		車輪幅 L	車輪幅 L
A	外向	190	—
	内向	284	—
B	外向	268	—
	内向	362	—
C	外向	318	380
	内向	412	—
D	外向	368	430
	内向	462	—
E	外向	426	488
	内向	520	—
F	外向	484	546
	内向	578	—

※車輪幅は、タイヤ中心からタイヤ中心までです。

装着位置と用途について

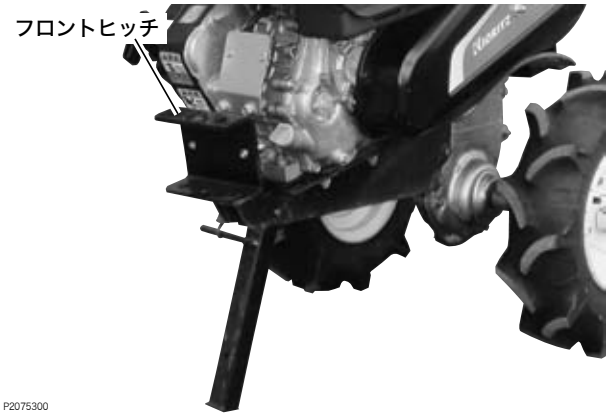
リヤヒッチ

ロータリー・抵抗棒・培土板・マルチなどの作業機を、本機に固定するときに使用します。



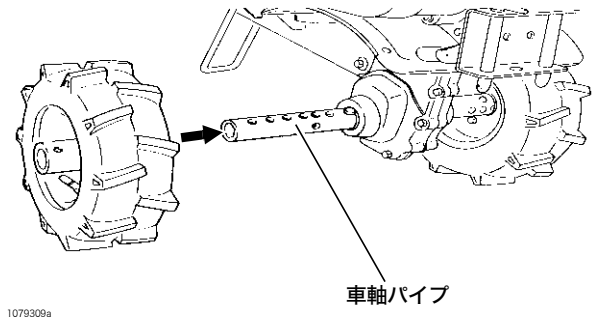
フロントヒッチ

フロントウエイトなどを取り付けるときに使用します。



車軸と車軸パイプ

タイヤ・ロータ・カゴ車輪などの車軸作業機を取り付けるときに使用します。

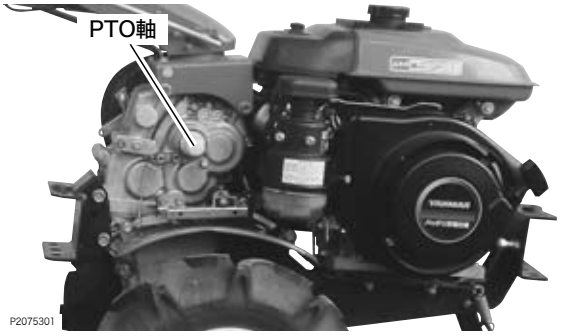


PTO軸

⚠注意

●PTO軸を使用しないときは、PTO軸にグリスを塗布した後、PTO 軸キャップを取り付けてください。取り付けていないと、PTO軸に巻き込まれるおそれがあります。

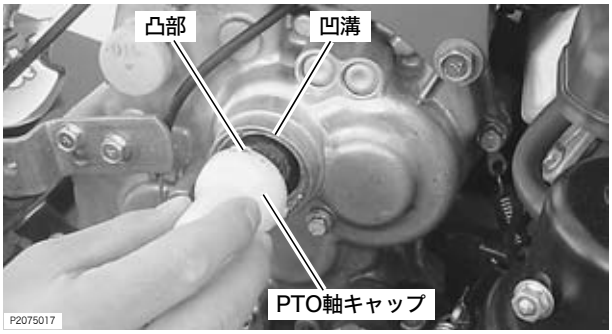
ロータリーなどの回転動力を得る場合に使用します。

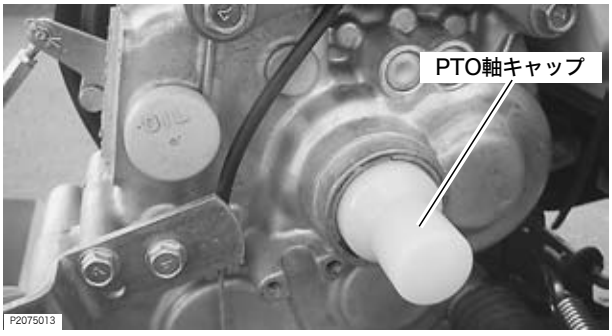


エンジン運転中に、主クラッチレバーを「入」位置にすると、PTO軸は回転します。作業機を取り付けていないときは、下記の要領でPTO軸キャップを取り付けてください。

〈取り付けかた〉

1．PTO軸キャップの凸部を、PTO軸回りの凹溝に合わせてはめ込んでください。
2．PTO軸キャップを回して、取り付けてください。





3．取り外しは、取り付けの逆の手順で行ってください。

⚠警告

●お手入れは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、機械が転倒して、思わぬケガをするおそれがあります。

⚠注意

●お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと、思わぬケガを負うおそれがあります。また、過熱部分が冷めてから行ってください。過熱部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。

1. 機械の手入れのしかた

その日の内に、水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり注油してください。

[重要]

●水洗いするときは、エアクリーナーの吸気口に水が入らないようにしてください。

●リコイルスタータ部の吸気口についたゴミは、きれいに掃除してください。



[重要]

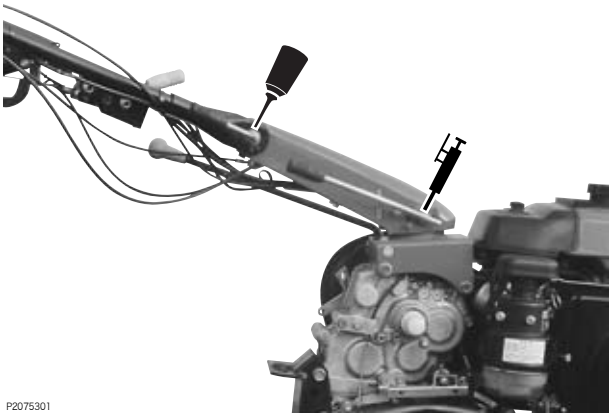
●吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンの過熱や出力低下の原因になります。

2. 各部の注油・グリスの塗布箇所

〈凡例〉

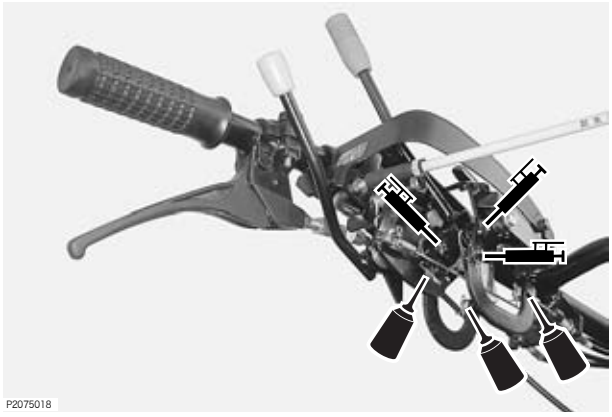
注油位置  グリス位置 

ハンドルロックレバー・ハンドル回動レバー



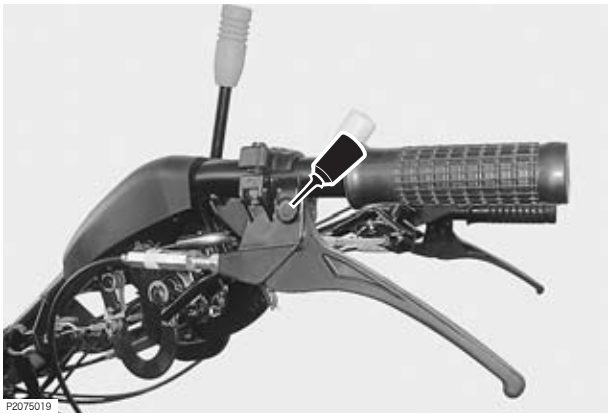
P2075301

主クラッチワイヤー・レバー支点



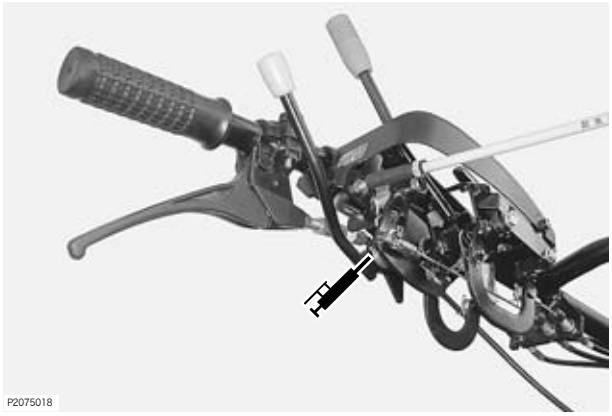
P2075018

サイドクラッチレバー支点



P2075019

OFFレバーカム



P2075018

ハンドル上下レバーワイヤー



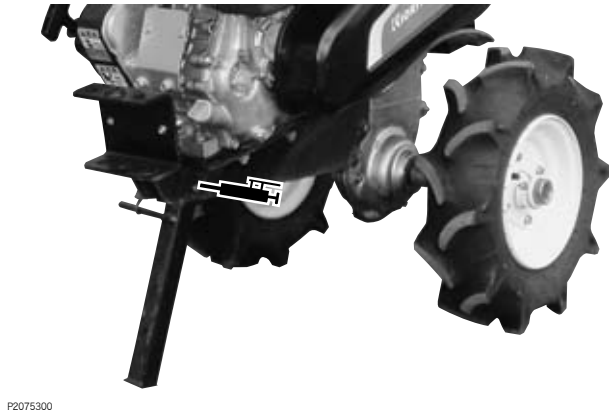
P2075018

主変速レバー支点



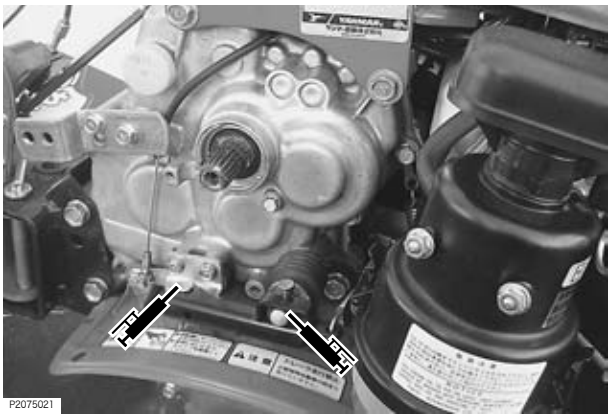
P2075306

スタンド支点

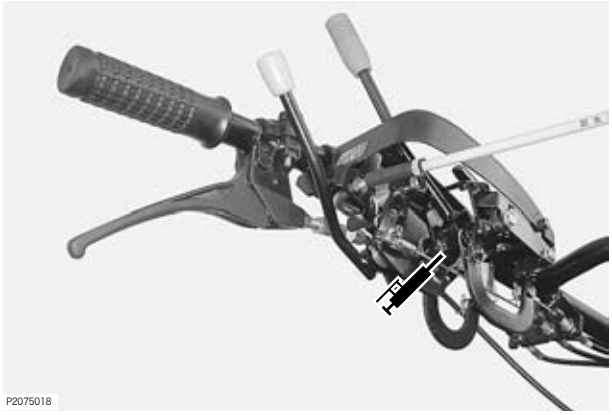


P2075300

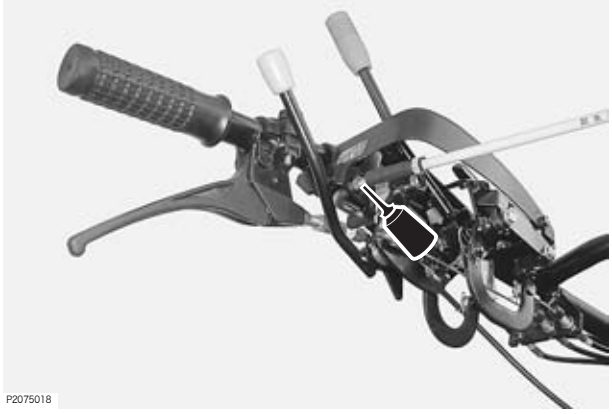
副変速の支点部



駐車ブレーキカム



緊急停止ワイヤー



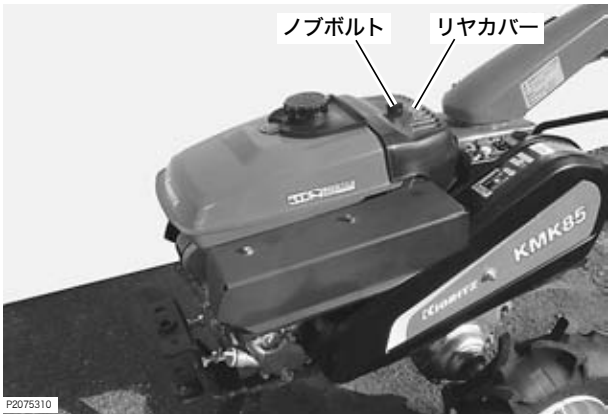
3. 格納のしかた

●機械は、直射日光や雨水のあたらない、風通しの良い屋内に置いてください。
●長期格納のときは、タイヤの下に木台を敷いてください。

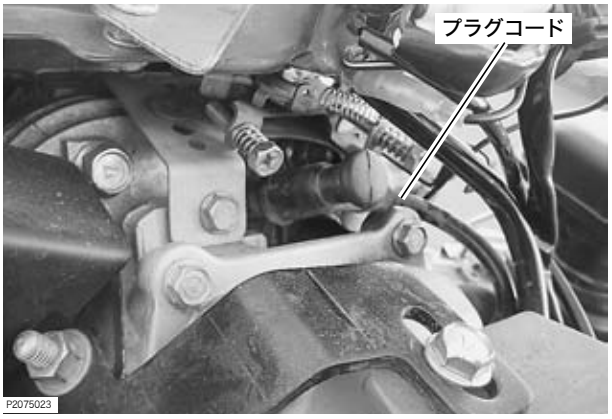
4. 長期間使用しない場合の手入れ

エンジンの手入れ

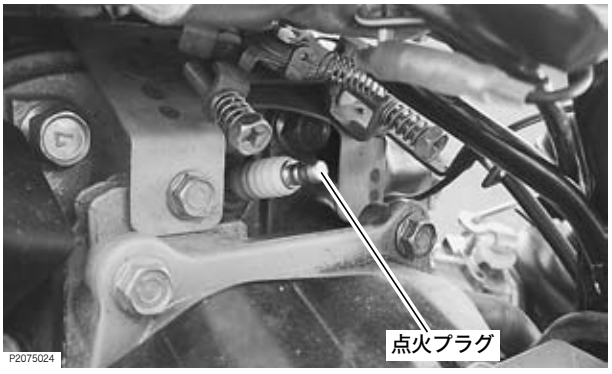
1. リヤカバー（ノブボルト：1本）を取り外してください。



2. プラグコードを取り外してください。



3. 点火プラグを、プラグレンチ（付属品）で取り外してください。



4. プラグの取り付いていた穴から、エンジンオイル30番を約10cc入れてください。
5. 点火プラグを取り外しの逆の手順で取り付けてください。
6. リコイルスタータを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮のある）で止めてください。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。（49・51ページ参照）

⚠警告

- **1 か月以上使用しない場合は、燃料タンク、キャブレター燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。**
  守らないと燃料が変質して故障の原因になったり、火災の原因となることがあります。

⚠危険

●燃料を扱うときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

⚠警告

●点検・整備を行うときは、平坦で安定した場所で駐車ブレーキをかけて行ってください。守らないと、思わぬケガをするおそれがあります。

●閉切った屋内などでは、エンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

⚠注意

●点検・整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬケガを負うおそれがあります。また、過熱部分が冷めてから行ってください。過熱部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。

●取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込まれたりして危険ですので、点検後の作動確認は、必ずカバーを取り付けて行ってください。

[重要]

●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期に機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場で定期点検整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

2. 定期点検一覧表

点検・調節箇所		規定量	内　　容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイルの交換		1.0 L	エンジンオイルSE 級以上 ●夏期(20℃以上)… SAE30番 ●秋・春期……SAE20番 ●冬期(10℃以下)… SAE10W－30番	1回目:25時間目 2回目以後:50時間ごと	50
走行ミッションオイルの交換		2.8 L	ミッションオイル90番	1回目:50時間目 2回目以後:200時間ごと	50
エアクリーナーエレメントの掃除			灯油で洗浄、または交換	作業前に点検	51
エアクリーナーのオイル		※1	エンジンオイルSE級以上	作業前に点検	51
燃料コシ器エレメントの掃除			フィルタ、カップ内掃除	作業前に点検	51
サイドクラッチレバー		約10mm	レバーとハンドルにぎりのすき間がA寸法のときにクラッチが切れる	作業前に点検	52
		0～1mm	レバーの遊び量B寸法	作業前に点検	
主クラッチレバー	主クラッチ「入」「切」	約10mm	ベルトの中央を指で押したときのたわみ量	作業前に点検	52
		3～5mm	ベルトとベルト押えのすき間	作業前に点検	
	副変速「高」「低」	ほぼ0	副変速アームと副変速軸の遊び	作業前に点検	53
	駐車ブレーキ「入」	タイヤが回らない	機体を前後に押したとき	作業前に点検	54
ヒッチ取付ボルト			増締め	作業前に点検	54
エンジン取付ボルト			増締め	作業前に点検	54
ハンドル台取付ボルト			増締め	作業前に点検	54
点火プラグ		0.6～0.7mm	火花ギャップ(電極すき間)	作業前に点検	55
タイヤの空気圧	標準タイヤ	120kPa (1.2kgf/cm^2)		作業前に点検	55
	ワイドタイヤ	240kPa (2.4kgf/cm^2)			

※1　OIL LEVELと記載されているところまで入れる。

3. 燃料の抜きかた

燃料の点検と補給のしかたは、26ページを参照してください。

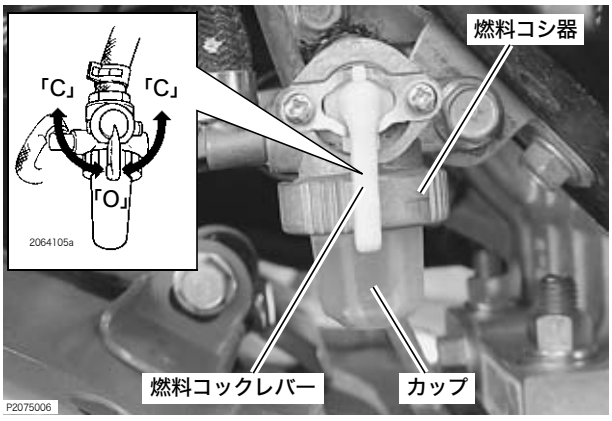
燃料タンク内

1. 燃料コックレバーを「C」位置にしてください。
2. 燃料コシ器のカップを外してください。

[重要]

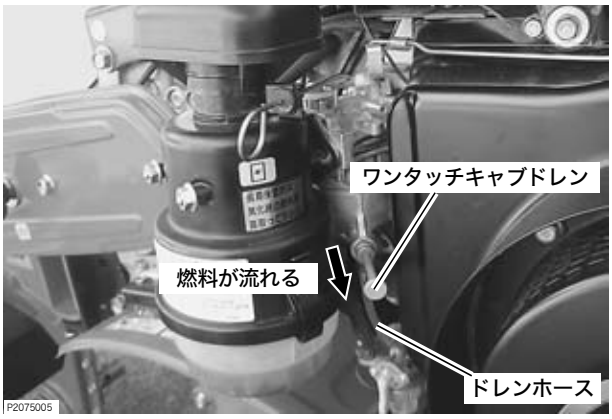
●燃料コシ器内に残った燃料は、「6.燃料コシ器エレメントの掃除のしかた」（51 ページ参照）の要領で抜き取ってください。

3. 燃料コシ器の下に容器をあて、燃料コックレバーを「O」位置にしてください。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料を全部抜き終わったら、燃料コックレバーを「C」位置にし、燃料コシ器にカップを取り付けてください。



キャブレター内

1. ドレンホースの下に燃料を受ける容器を置いてください。
2. ワンタッチキャブドレンを引いて、キャブレター内の燃料を抜いてください。



3. 燃料が出なくなったら、ワンタッチキャブドレンを押し込んでください。

4. 各オイルの交換のしかた

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給のしかたは、27ページを参照してください。

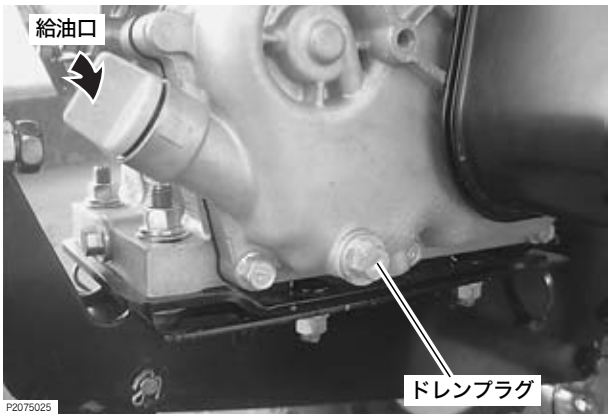
〈交換のしかた〉

1. エンジン左下にあるドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

●給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



4. 給油口から、エンジンオイルを給油口の口元まで給油してください。
5. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。

ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給のしかたは、27ページを参照してください。

〈交換のしかた〉

1. 走行ミッションケース下部にあるドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

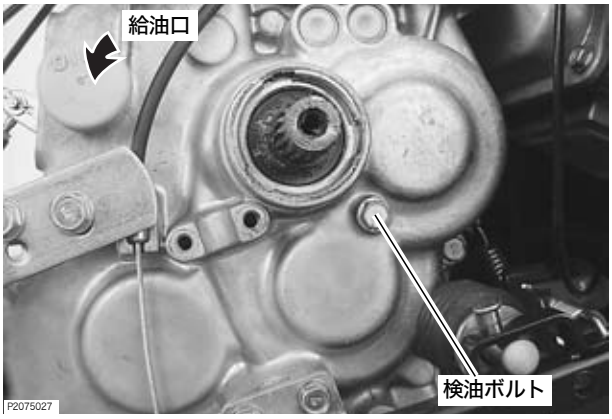
[参考]

●給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



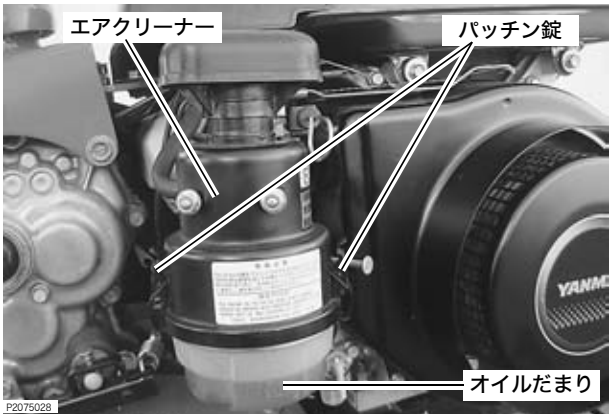
4. 検油ボルトを取り外してください。
5. 給油口から、ミッションオイルを検油口の口元まで給油してください。
6. 検油ボルトを取り付けてください。
7. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。

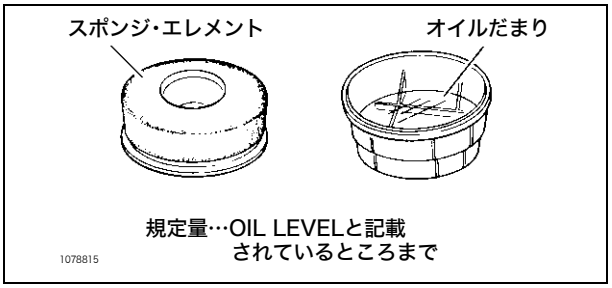


5. エアクリーナーの掃除・交換のしかた

エアクリーナーは、いつもエンジンを快調にする装置です。汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

1. オイルだまりを固定している、パッチン錠（2か所）を解除して、オイルだまりを外してください。
2. オイルだまりからスポンジエレメントを取り外してください。
   1）スポンジエレメントは、灯油で洗った後、エンジンオイルに浸して、硬くしぼってください。
   2）オイルだまりは、灯油で洗浄して、新しいオイルを規定量入れてください。(エンジンオイルSE級以上)
3. スポンジエレメントとオイルだまりを、取り外しと逆の手順で取り付けてください。





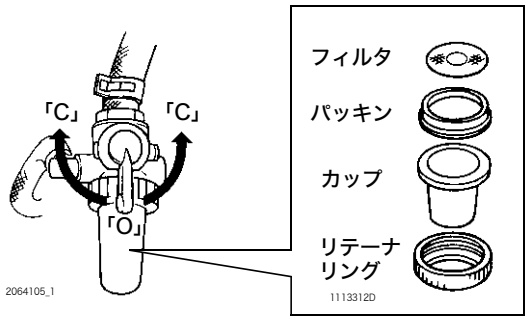
6. 燃料コシ器エレメントの掃除のしかた

⚠危険

●燃料コックが「O」になったままでコシ器を外すと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「C」にして行ってください。

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなゴミをこし取るものです。下記の要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C」位置にしてください。
2. コシ器のリテーナリングを回して、カップを取り外してください。
3. コシ器内の水やゴミを取り除き、フィルタの目詰まりなどを掃除してください。



4. フィルタ・パッキン・カップ・リテーナリングを元通りに取り付けてください。

7. サイドクラッチレバーの点検・調節のしかた

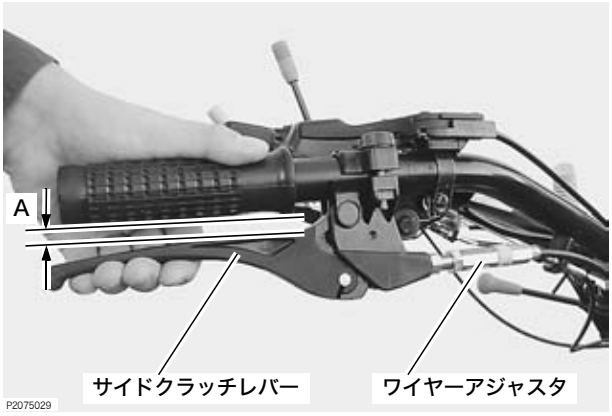
サイドクラッチレバーの点検・調節は、左右共行ってください。

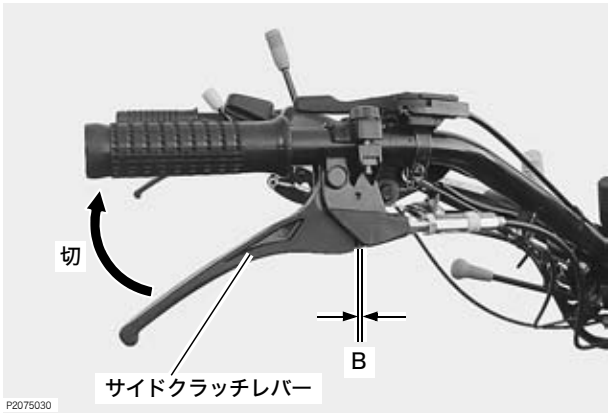
〈点検のしかた〉

1. サイドクラッチレバーを握って、レバーとハンドルにぎりのすき間が約10mm（A寸法）のときに、クラッチが切れることを確認してください。
2. サイドクラッチレバーの遊び量が0～1mm（B寸法）であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. サイドクラッチレバーのワイヤーアジャスタを回して調節してください。
2. 調節後は、確実にクラッチが切れるか確認してください。





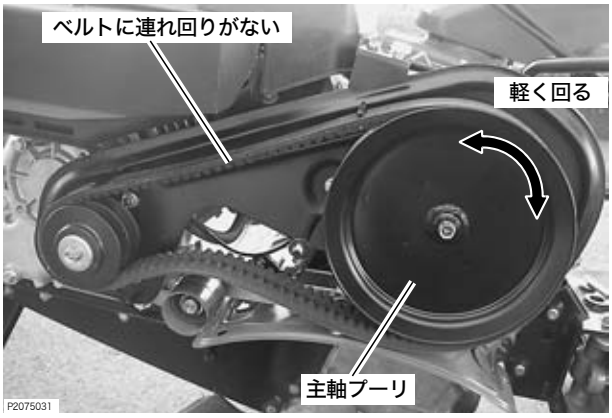
8. 主クラッチレバーの点検・調節のしかた

主クラッチレバーは、1本のレバーで、主クラッチの「入」「切」、副変速の「高」「低」、駐車ブレーキをかけることができます。それぞれに調節のしかたがありますので、以下の要領で行ってください。

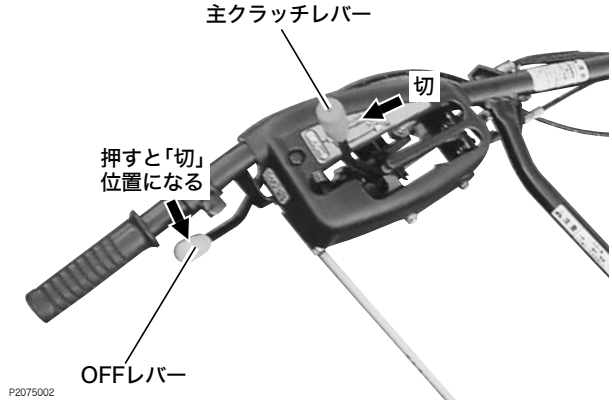
主クラッチの「入」「切」の調節

〈点検のしかた〉

1. 主クラッチレバーの「入」「切」が確実に行われるか確認してください。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にして、主軸プーリが手で軽く回り、ベルトが連れ回りしないことを確認してください。

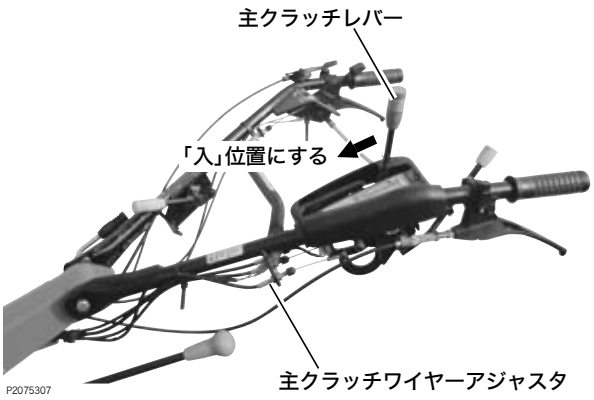


3. OFFレバーを押して、主クラッチレバーが「切」位置になることを確認してください。

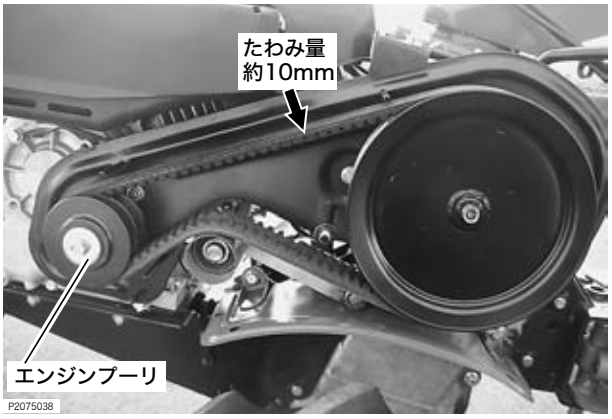


〈調節のしかた〉

1. 主クラッチレバーを「入」位置にしてください。
2. 主クラッチワイヤーアジャスタで調節してください。



3. ベルトの中央を指で押えて、たわみ量が約10mmになるように調節してください。



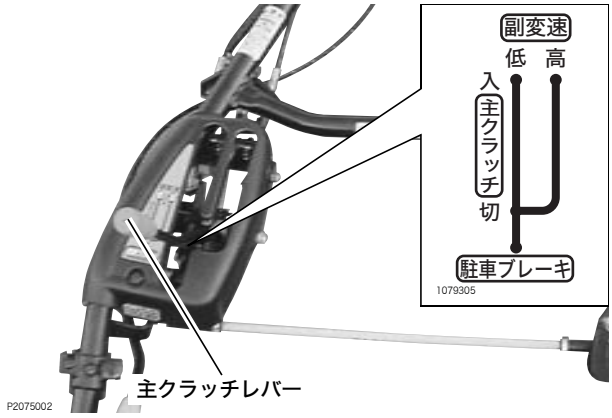
副変速の「高」「低」の調節

〈点検のしかた〉

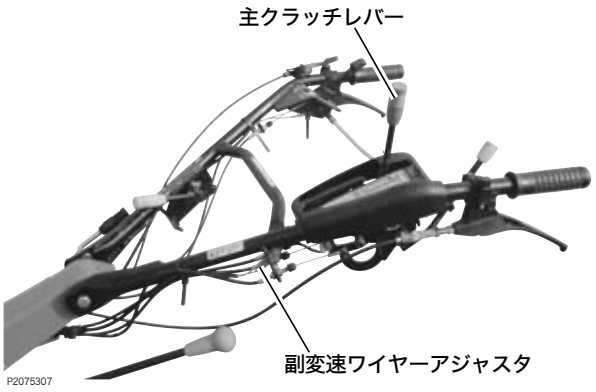
1. 副変速の「高」「低」が確実に切り替わるか確認してください。

〈調節のしかた〉

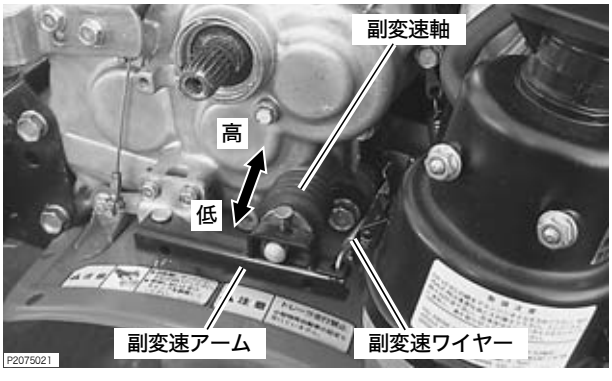
1. 主クラッチレバーを副変速の「低」側にしてください。



2. 副変速アームと副変速軸との遊びが、ほぼ0になるように、副変速ワイヤーアジャスタ（黄色テープ）で調節してください。



3. この状態で、主クラッチレバーを副変速の「高」側にしてください。
4. 副変速アーム部が副変速軸を押し込んでいることを確認してください。



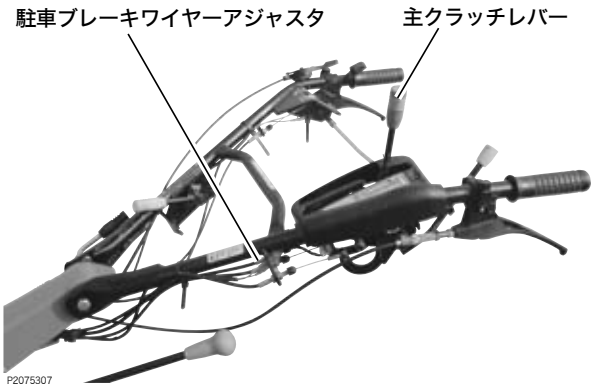
駐車ブレーキの調節

〈点検のしかた〉

主クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にした状態で、機体を前後に押して、車輪が回らないことを確認してください。このとき、サイドクラッチレバーは握らないでください。

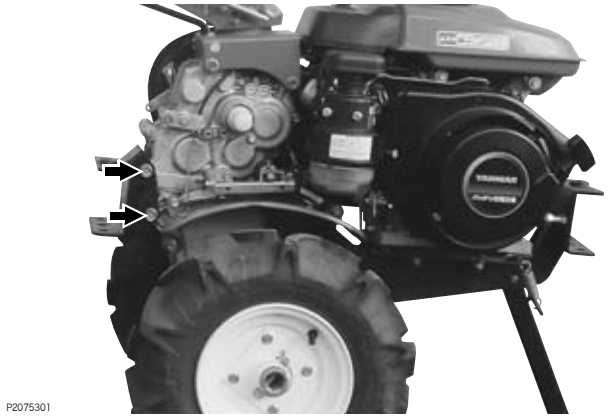
〈調節のしかた〉

1. 主クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
2. 駐車ブレーキがきくように、駐車ブレーキワイヤーアジャスタ（赤色テープ）で調節してください。

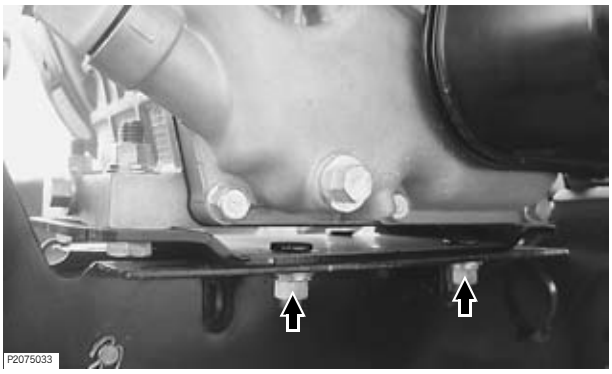


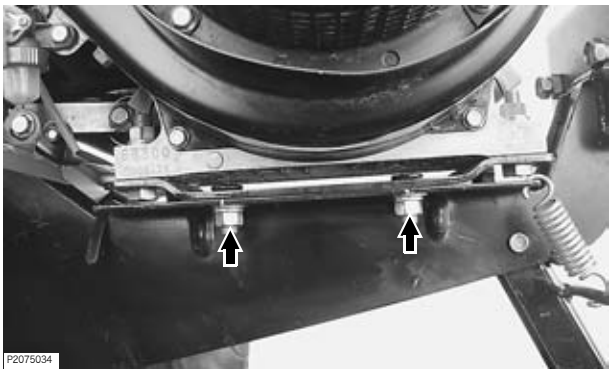
9. 締め付けをするところ

ヒッチ取付ボルト

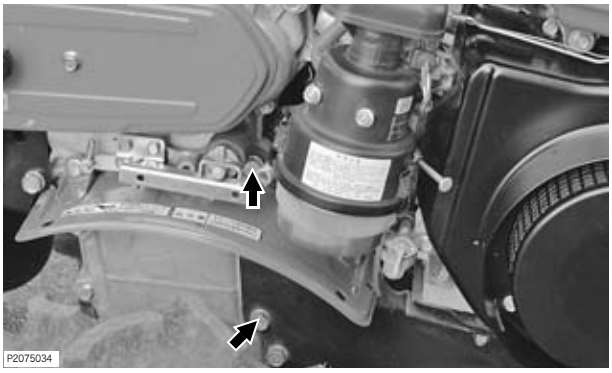


エンジン取付ボルト（4本）

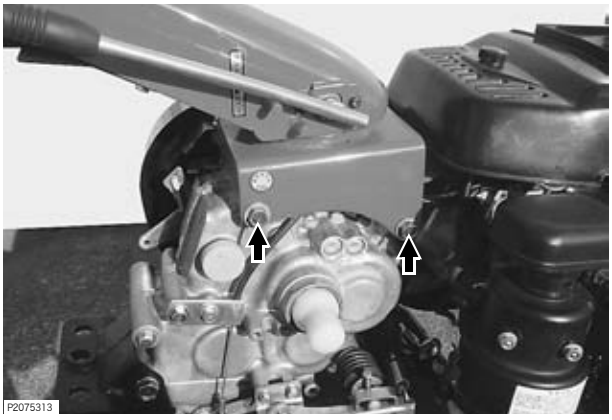




エンジンフレーム取付ボルト（2本）



ハンドル台取付ボルト



10.点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

電極部が焼けたり、損耗または破損している点火プラグを使用していると、エンジンの不調や排ガス不良になります。定期的に、点火プラグの点検・掃除をしてください。

〈点検のしかた〉

1. 点火プラグをエンジンから取り外してください。（46ページ参照）
2. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検してください。
3. 火花ギャップ（電極すき間）を0.6～0.7mmに調節してください。
4. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込んでください。

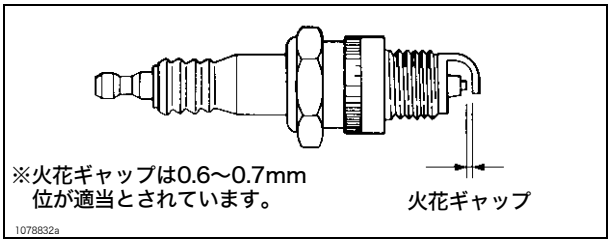
〈掃除のしかた〉

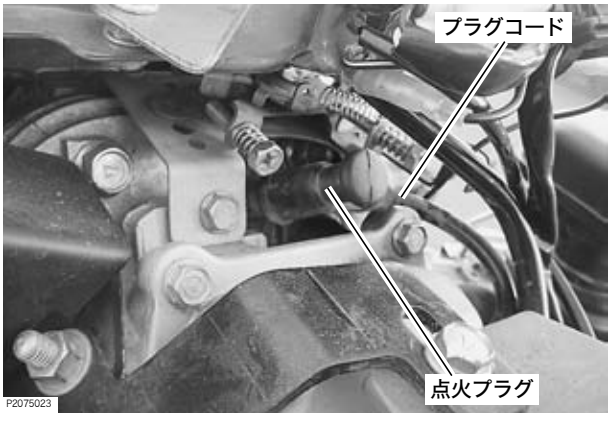
電極部をワイヤーブラシで掃除してください。

〈交換のしかた〉

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。

標準点火プラグ	NGK製(BP5ES)



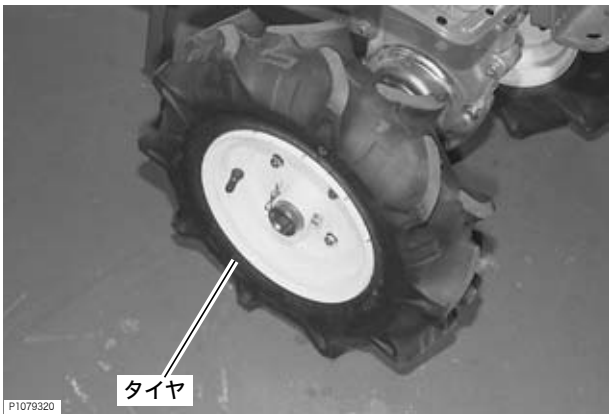


11.タイヤ空気圧の調節のしかた

左右のタイヤの空気圧を調節してください。

タイヤの空気圧	標準タイヤ	120kPa(1.2kgf/cm^2)
	ワイドタイヤ	240kPa(2.4kgf/cm^2)

左右の空気圧が均等になっていないと、運転中ハンドルを取られることがあります。



12.燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

⚠危険

- 燃料パイプの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料もれが無いか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないか点検します。燃料パイプや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店などで修理してください。

傷んでいなくても2年ごとに交換するようにしてください。

11章 不調診断のしかた

⚠警告

●機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれたり、傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄の販売店に連絡してください。

1. エンジンが始動しない場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	26
エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	28・29
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜まっていれば、燃料コシ器を外して、ワンタッチキャブドレンで水抜きをしてください。	49
ご購入後1か月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンクキャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	26
点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外して、火であぶるか、乾いた布でよく乾燥させてください。	–
	点火プラグの火花すき間を調節してください。それでも始動しない場合は、新しい点火プラグと交換してください。	55
長期保管などにより、変質したガソリンを使用していませんか。	燃料タンク・気化器を整備する必要があります。販売店に相談してください。	–

2. エンジンの力がない場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
エアクリーナーにゴミが詰っていませんか。	オイルだまりを取り外して、灯油で洗い、乾燥後新しいオイルを入れてください。	51
エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	27・50
アタッチメントが大きすぎませんか。	適正な大きさのアタッチメントに取り替えてください。	58
ベルトが張りすぎていませんか。	適正な張りに調節してください。	52・53
エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取り付け位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。	–
	アクセルワイヤーのセット位置を変えてください。	–
エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグおよびシリンダヘッドボルトを締め付けてください。	–
	ピストンリングなどの摩耗も考えられます。販売店に相談してください。	–

3. 各部に振動が多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルト、およびエンジンフレーム取付ボルトを強く、締め直してください。	54
ハンドル・ハンドル台が振れるのではありませんか。	ハンドルロックレバーとハンドル回動レバーを確実に締め付けてください。	22・54
アタッチメントが振れるのではありませんか。	本機とアタッチメントの中心を合わせて、ヒッチ部のボルトを締め直してください。	42

12章 その他

1. 主要諸元

名称						共立管理機	
型式名						KMK85	KMK85W
機体寸法	全長 (mm)					1650	
	全幅 (mm)					630	
	全高 (mm)					1170	
機体質量 (kg)						100	110
エンジン	型式名					GB290LN	
	種類					空冷4 サイクルOHV ガソリンエンジン	
	総排気量 (L{cc})					0.296{296}	
	定格出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)					4.4{6.0}/1800	
	最大出力 (kW)					6.3	
	使用燃料					自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)					5.0（規定量）	
	エアクリーナー形式					オイルバス	
	始動方式					リコイルスタータ式	
	点火プラグ					NGK製（BP5ES）または相当品	
走行部	動力伝達	エンジン～主軸				Vベルト SB44（HPⅡコグ）×2本	
		主軸～ 車輪				平歯車～チェン	
	走行速度（m/s）	ハンドル正位置時：前進 ハンドル逆位置時：後進	変速段数	主	副	F4・R4	F4・R4
			1速	1	低	0.24	0.24
			2速	1	高	0.35	0.36
			3速	2	低	※1 1.23	※1 1.24
			4速	2	高	※1 1.79	※1 1.81
		ハンドル正位置時：後進 ハンドル逆位置時：前進	1速	1	低	0.29	0.29
			2速	1	高	0.42	0.42
			3速	2	低	※2 0.64	※2 0.65
			4速	2	高	※2 0.94	※2 0.95
	車輪					タイヤ 4.00-8	タイヤ 17×8.00-8
	輪距 (mm)					190～580	380～545
	車軸幅 (mm)					257	
	車軸形状 (mm)					六角（対辺 26.2）	
	車軸パイプ形状 (mm)					内六角外丸（φ39.5）	
	主クラッチ形式					ベルトテンション式	
	副変速形式					ボールクラッチ	
	操向クラッチ形式					ボール式	
ハンドル	左右回動調節					菊座⊕皿バネ	
	上下回動調節					菊座ボルト⊕ピン抜差	
PTO回転速度 (rpm)						703	

※ この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※1 速度段は、ハンドル逆位置では高速バックストッパを使用しているため使用不可です。
※2 速度段は、ハンドル正位置では高速バックストッパを使用しているため使用不可です。

2. 主要消耗部品

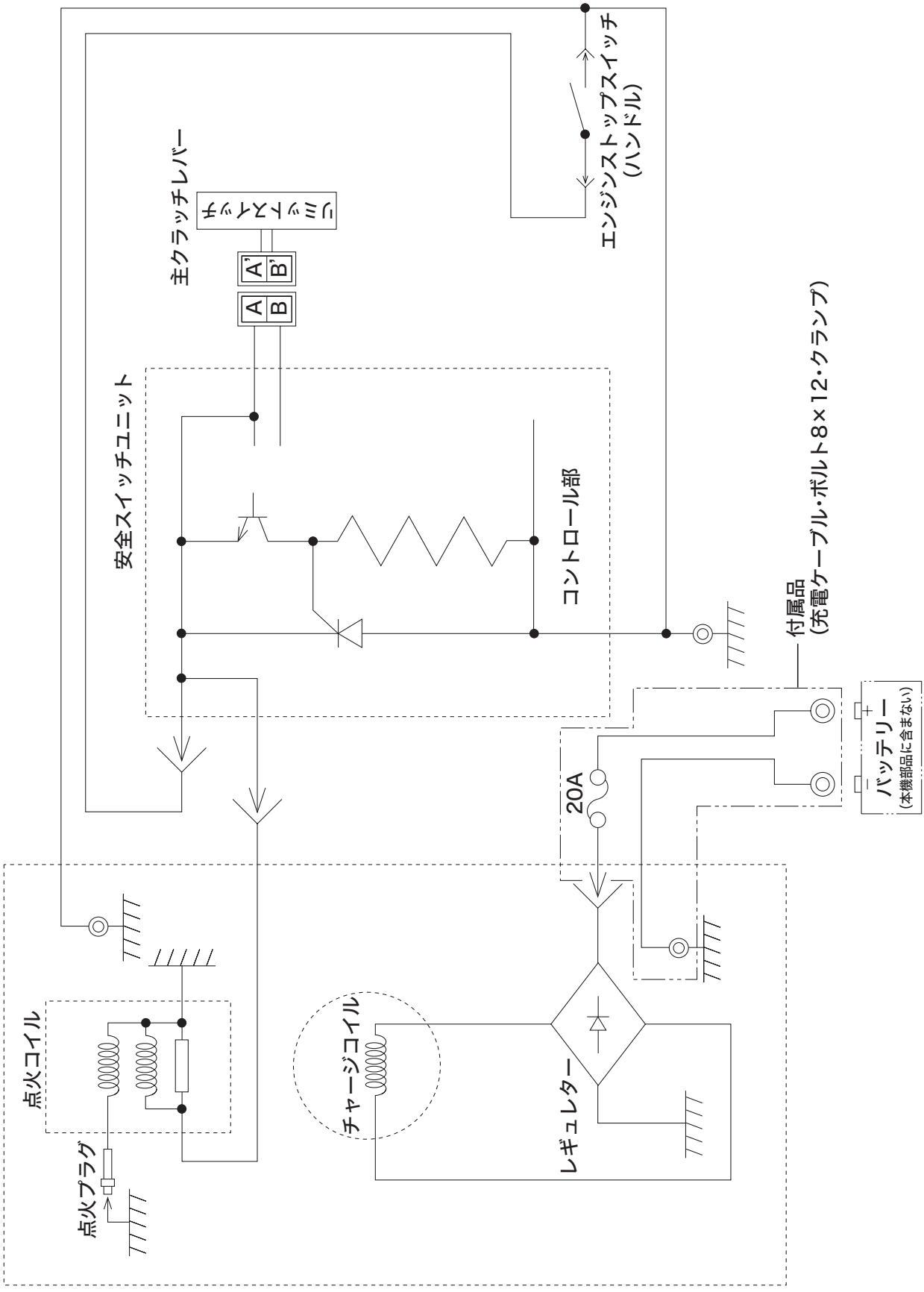
No.	品　　名	コードNo.
1	VベルトSB44(HPⅡコグ)	1A2431-12020
2	車軸ピン	194012-92130
3	スナップピン 10	1A1290-36010
4	ヒッチピン	1A1040-81100
5	スナップピン 16	22360-160000
6	アクセルワイヤー	1A2431-54210
7	ハンドル上下ワイヤー	1A2431-54050
8	シュクラッチワイヤー	1A2431-54300
9	チュウシャブレーキワイヤー	1A2431-54310
10	フクヘンソクワイヤー	1A2431-54330
11	サイドクラッチワイヤー	1A2431-54480
12	点火プラグ	160690-78030
13	タイヤ	−
14	各オイルシール	−
15	各燃料パイプ	−

3. 適応標準ロータリー

名　　称	ロータリー型式		適応本体型式
			KMK85
標準中耕ロータリー(正2)	爪・爪軸付	RB41MBD	○
	爪・爪軸無	RB41MBNN	○
クイック畦立てロータリー	爪・爪軸無	RQ41MBNN	○
4段変速ロータリー	爪・爪軸付	RB41TMBD	○
	爪・爪軸無	RB41TMBNN	○
軸駆動ロータリー	爪・爪軸無	RSU41MBNN	○

13章 配線図

※充電性能：12V, 10A



※ 外部電源取出し接続方法は、24ページ「(9) 外部電源」を参照してください。

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田 566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

1A2431-88101

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。